



水の江蘇
あなたが
いるから、より
美しい

水韻江蘇

江蘇省文化・観光庁

JIANGSU PROVINCIAL DEPARTMENT OF CULTURE AND TOURISM



CHARM OF JIANGSU'S INTANGIBLE CULTURAL HERITAGE

水韻の無形 文化遺産

江蘇は水によって構築された街である。水に依託して発展し、水によって栄えている。古代から人々の周りに流れている小川は比類のない生き生きとした平原の水網を形成し、人々の知恵と優雅さを育んだ。芸術はここに集まり、気迫に満ちた力強さと、穏やかな婉曲さと繊細さで、共に煌びやかな無形文化遺産の画卷を描いてくれた。

無形文化遺産の世界では、昔ながらの古典的な生活スタイルが現代の生活の中で新しい趣が輝いている。蘇繡と雲錦の意味深さ、藍印花布の物静かな素朴さ、人々の美に対する追求は一度も止まったりはしない。華やかな服はただ見た目の美しさを強調しただけではなく、人的精神の内包の表現でもある。自分を飾る以外に、人々は生活の空間を飾る美意識を有している。玉の彫刻、漆器、紫砂の陶器などが書齋の隅に立ち、他の高雅な賞瓶や器物と一緒に机の上の風景となったりしている。ご馳走を召し上がった後、各種のご趣味は人々の暇つぶしになった。琴を撫でたり、戯曲を聞いたり、芝居を見たりするのは上品な文人のみの楽しみではないためだ。視線や仕草やストーリー、その一つ一つが江蘇の数千年の風情や風雅を生き生きと語っている。

人類にとって光り輝く無形文化遺産は水辺散歩のようなロマンがあり、天地の間で心ゆくまで遍歴する風情もある。無形文化遺産、遠い昔の神秘的な存在ではなく、人々の衣食住、一日三食にあり、江蘇人の勢いよく発展している生命の輝きを見せている。

美を好むのは人間の天性である。故に衣服と装飾の芸術は絶えず成長し、衣服は体を覆うだけのものではなく、その多種多様さは様々な場合、ニーズに対応している。巧みな製造技法、織り方と刺繍技術は結局、人々の感情表現と美に対する追求であり、伝統文化に含まれている創造力と生命力を鮮明に解釈し、江蘇人の生活の知恵を体現している。

雲錦

中国古代の絹織物の中で、「錦」は最高技術の織物で、その錦の中で最も高貴なのは雲錦である。「雲錦」という名称は中国の清の時代に遡る。精巧な工芸技法、綺麗で華やかな図案、まるで空の雲のように格別美しいため、「雲錦」と名付けられた。雲錦織の職人技は非常に複雑で、今でも機械を代用できないため、南京雲錦はまた、「寸錦寸金」と呼ばれている。



Tips 南京雲錦織の職人技は2009年にユネスコ「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に登録した。

蘇繡

蘇繡は中国の伝統的な名刺繡の最高峰で、蘇州呉江辺りに生まれた。刺繡台一枚で千年の絹を広げ、銀の針は刺繡職人の手によって絹の上で飛び回り、優雅なラインと華やかな色彩を描くことにより、素晴らしい刺繡作品はシルクの上で生き生きとしている。歳月は過ぎ、蘇繡は絶えず変化してきて、針の技法、色、図案など各方面で独立した芸術的特徴を形成して、書画芸術と匹敵するほど美しいと言っても過言ではない。



藍印花布

時は春秋戦国時代、中国の民間ではすでに青い草で色を染めていた。深い青、純粋な白、華やかな錦のように眩しくはないが、顔に当たる素朴な雰囲気は江南の女性の婉曲で穏やかな気質にぴったりである。多種多様な紋様は深い文化的な意味を示しており、「龍鳳呈祥」や「松鶴延年」など、中国の伝統文化と芸術の内包を映し出している。





高雅な賞翫と器物

江蘇は昔から文化の蘊蓄が深い高雅な地で、上品な風物に囲まれ、その中で暮らしている人も微かな詩情を染め、極めて優雅な生活美学は居住空間の至る所に満ち溢れている。玉の彫刻、漆器、紫砂の陶器などの器物や高雅な賞翫はいつまでも微妙な人情、清らかな境地と関わっている。無形文化遺産は人々の生活を飾り、平凡な日常を豊かかつ多彩にした。

玉の彫刻

大運河の通航は江蘇の玉の加工技術を全盛期まで発展させた。江蘇の玉彫刻の精巧さは絵画と彫刻をしっかりと結び合わせ、刃を筆でのように扱う。玉の材料は玉職人の凄腕と想像力を通して、ごつごつとした奇石や枯れ葉に磨かれたりして、バランスの取れた絵は全く人の作り物に見えなく、まるで天然品のようである。



漆器

煌びやかで美しい色を身につけた漆器は、今から約2400年の歴史がある。伝統の漆器工芸は様々な種類があり、製造工程が複雑で、深い人文内包も含まれている。その中の点螺工芸で製造した漆器工芸品は、色が鮮やかで、はっきりしている。貝殻は日の光の照らされると、色が変わり、潤い輝きを反射する。近年、漆器のスタイルとテーマは絶えず新しくなり、見た目の美を有すると同時に、現代人のニーズにももっと応えられ、斬新で実用性がある。



彫版印刷

1300年以上前に、彫版印刷は中国で誕生した。この誕生から作成まで全て素手の腕で作られる古い技術は江蘇でしか保存されていない。彫版印刷は書道、篆刻など複数の技術を融合させた芸術形式であり、彫刻刀は「拳刀」と呼ばれ、拳を握るように刀を握り、墨跡に沿って刀で木版を刻み、筆画を中断したり他の文字にぶつかったりしてはいけない。現代の職人は彫版印刷によって、普通の読書も懐古的な気分となる。

Tips 中国の彫版印刷技術は2009年にユネスコ「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に登録した。



紫砂壺

中国人は昔からお茶を飲むことが好きで、お茶を入れる器具にもこだわっている。紫砂の壺を使ってお茶本来の香を無くすことなく茶葉の色、香り、味を長く保存できる。紫砂の壺と言えば、江蘇宜興の紫砂壺が最も優れている。泥の独特な性質で宜興紫砂壺がよい通気性があり、二つの通風孔構造で、茶の湯の要らない味を吸着させ、一定の調整効果がある。



歴代の文人墨客はお茶を味わいながら、壺職人と一緒に紫砂壺に詩を書いて絵を描き、想像力と創造性を存分に発揮して、紫砂壺にそれぞれ長所を付与し、多彩化した。精巧な紫砂壺は、実用性と芸術性を兼ね備え、視的効果と味覚を融合させ、人々のお茶を賞味する体験も昔の格調に還元した。



暇時の趣味

風雅の種は、江蘇人の住んでいる土壤に埋もれている。琴棋書画、詩酒花茶、従来上品な文人のみの楽しみではない。無形文化遺産は忙しい生活に高雅な暇時の過ごし方を添えた。時には芸術鑑賞であり、時には芸術創作のようでもある。暇がある時には琴を撫でて心身を修養したり、昆曲を聞いたりして、悲しくて心を感動させる物語に熱中したり、にぎやかな芝居を見たりする。



古琴

琴は中国の発展の過程で多くの流派を生み出した。そのうち、南京の金陵琴派、蘇州の吳門派、揚州の広陵派、南通の梅庵派など大部分は江蘇に生まれた。人々が琴を弾くのは音楽を演奏するためだけではなく、よく瞑想、個人の修養、親友との感情交流とかわり、古琴の芸術もそれゆえに東方文化のシンボルとなった。



Tips 中国の古琴芸術は2003年にユネスコ第二回「人類の口承及び無形遺産の傑作」リストに登録した。

昆曲

昆曲は別名「昆劇」といい、「百劇の祖」とも呼ばれており、14世紀の蘇州昆山に源を発した。600年の歴史を持つ昆曲は、永遠に幕を降ろさない長い劇のようである。上品な衣装、悠々と流れる笛の音、目つき、仕草、変化し続けるシーン、人物像の変遷、全ては江蘇ならではの美しい物語を唱えている。風雅の美は江蘇の数千年の文化的な趣向と上品さを見事に表現してくれる。

Tips 昆曲は2001年にユネスコ第一回「人類の口承及び無形遺産の傑作」リストに登録した。



揚劇

揚劇は江蘇の伝統的な地方劇の一つで、民間に誕生し、揚州方言で唱え、一般人の喜怒哀楽を吟じ、素朴で生き生きとして生活に寄り添っている。また、揚劇は喜劇の創作を重視し、活発、ユーモア、誇張の手法に軽妙で流暢なリズムを加え、粋を尊重しているものの、柔軟さもあり、独特な個性が備え、通俗的でありながら上品さも十分ある。



淮劇

淮劇、又の名は江淮劇で、今日まで200年余りの歴史を有する。清朝末期から民国初期にかけて上海で発展して完備し、次第に茶屋の劇園から正真正銘の戯曲の舞台で上演するようになった。淮劇の歌い方は民間の説唱と労働ラップから起源しており、股わり、道立ち、烏龍紋などの武劇も絶技と言える。現代淮劇はしばしば戯曲大賞を獲得するだけでなく、さらにヨーロッパでも公演し、国際的な舞台で江蘇からの芸術的魅力を展示している。





民俗伝統探し

長い歴史の移り変わりは、人々の衣食住を変えたが、古い民俗を記録した芸術作品は依然として人々の文化の根を示してくれている。時の流れは留まらないが、古い味わいを忘れてはいけない。伝統的な印は人々の魂の中に刻まれており、江蘇人一人一人の血の中に流れている。新年に張り出された切り紙、正月の飾り提灯、端午の節句に胸につけた香り袋、祠堂に祀られた泥人形、いずれも悠久の記憶を覚えさせてくれる。

切り紙

切り紙の歴史は早くも紙が世に出された年代まで遡り、中国で最も伝統的な民間芸術の一つである。中国の他地域で盛んに行われている切り紙と異なり、江蘇地域の伝統的な切り紙はオーダーメイドした手作りの宣紙を切ったものであり、すっきりした線、精巧で繊細な構図、革新した技法、額縁に表装された切り紙は写意の中国細密画と同様の手法である。



また、切り紙のテーマも幅広く取り上げられ、人物や花卉、鳥獣虫魚から、珍しい奇観、名所旧跡まで、ハサミ一本と紙一枚で精巧で美しい世界を作り出す。千百年以来、切り紙の職人は「刀」を筆にして、「紙」という言葉で千変万化の日常を表し、人々の生活への深い愛を刻んだ。

Tips 中国の切り紙は2009年にユネスコ「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に登録した。



灯彩

秦淮灯彩は我が国の伝統的な灯彩芸術の重要な流派であり、南京地区の代表的な民間手作り芸術の一つでもある。灯彩職人は日常生活からインスピレーションを得て、神話伝説、干支動物、歴史の逸話などを飾り提灯のテーマにしている。祝日のために生まれた秦淮灯彩は、人々の子供時代の楽しい記憶を載せながら、「新しい一年の始まり」を伝えている。



Tips 秦淮提灯祭り、町で最も暖かい灯り

毎年春節になると、南京では秦淮提灯祭りが行われる。伝統的な飾り提灯を基に、灯彩職人らは現代人の好みに合わせ、各種の干支灯り、音声灯りを作る。これは一年中に飾り提灯を楽しむ最も良い時期であり、この時の夫子廟、老東門辺りは、灯りは潮のようで、人はまるで海のように押し寄せる。人々は寒くなったのを忘れ、夜のとぼりが来るのを待っている。そして遊覧船に乗って、ゆっくりと背後に消えていく秦淮河兩岸を飾った提灯を見ながら秦淮河の別の模様を楽しんでいる。



匂い袋

匂い袋は中国古代の伝統的なアクセサリで、史料によると、中国古代の男女が出かける際に匂い袋を着用する習慣があったと記録されている。馬荘匂い袋は最も古い製作技術をずっと堅持しており、素朴な外見と精巧で美しい図案があり、見た目と実用性を備えている。匂い袋の中には常に漢方薬が入っており、漢方薬の特性によって虫よけ、湿気を防ぎ、風邪の予防、神経の安定、安眠などの効果がある。



泥人形

惠山泥人形は無錫の惠山祠堂から源を発した。数百年以来、泥人形のイメージは豊富で様々なスタイルがあるが、天真爛漫で可愛く、子供が大好きな大阿福は依然として最も人気である。五福衣を着ている大阿福は、端正で温厚な顔をしている。職人は「福」を中心にずんぐりと、また、にこにこしている大阿福に感情と表情を与えた。このような大阿福は普通な家庭に入って、人々に吉祥と幸福をもたらしている。



水韻の無形 文化遺産 INTANGIBLE CULTURAL HERITAGE



江苏省文化・観光庁

Q @Visit Jiangsu



CHARM OF JIAGNSU DELICACIES

水韻の美食



「水」は江蘇の最も鮮明な自然と人文の記号で、生命の源であるが、食べ物の構成部分でもあった。千年も前に江蘇の先人たちは川に沿って家を建て、朝も夜も耕作している。人々は自然の恵みを上手に利用し、食材も彼らの工夫によって様々な美食になった。「食」の前に「美」をつけてなんとロマンチックな境地になり、美食の裏には歴史の印があり、食べ物を味わうのも、時間を味わうことである。

中国の南北を跨ぐ大運河は中国の最も進んだ経済ルートを作っただけではなく、千年も讃えられた淮揚菜を生み出した。運河の盛衰、焜炉の火の明滅、手の込んだ料理は時間の幕を通り抜けて舌の先に到達し、人々は味覚を通してまるで運河の華やかな最盛期に帰ったような感じがする。

江、河、湖、海の揃った江蘇省では、湖の水が最も澄んでいて変化に富んでいる。広々とした太湖で、友人三、五人で遊覧船に乗り、櫂の音がして灯影の点滅する所に行き、湖を眺め、宴を飲む。昔の中国の文人の風雅な情緒は瞬時に目の前に現れ、杯を交わしながら心置きなく語り合い、岸に流れている風景を眺めるのは本当に世の中の楽しみである。

運河と湖を離れて、河畔の都市、海辺の小さな町には依然として江蘇省ならではの美味が潜んでいる。塩辛い塩水アヒル、透き通った水晶肴肉、種類の多い海産物……水との付き合いで江蘇の美食は万象を網羅するようになり、この美食の長い絵巻をめぐる時、いつも思いがけない喜びと出会える。



運河から生まれた名物料理

古い大運河は舟の行き来が止まらない。千年前、運河沿岸の人々は奇想天外な発想や生活への感知を食べ物に注ぎ込み、南北の好みを融合し、素晴らしい調理の腕を通じて、やがて淮揚菜を中国の四大料理系統のトップにした。運河の味もこのまま人々の食卓に出され、尋常な家々で伝わってきた。

淮揚の佳味

江蘇の気候は丁度よく、四季がはっきりしており、河川の水網が縦横に走っており、自然の物産が豊富で、理想的な食材は淮揚菜の美味しい食べ物を作り上げた。普通の食材は料理人の工夫で、華やかな姿で登場し、食べる人に与えられるのは口に入る美味だけではなく、更に視覚的なご馳走になる。



文思豆腐羹

淮揚料理は切り方を重んじる。これは淮揚名物料理「文思豆腐羹」にとことん表れている。一つの小さな柔らかい豆腐はまさか5000本の豆腐の糸に切った。その後、そっと熱いスープに入れる。水の中に集まった豆腐の糸は白い菊の花のようにゆっくりと咲いて人を驚嘆させる。



大煮乾絲

大煮乾絲は淮揚料理の中の典型的な料理で、素材は干し豆腐の千切りと鶏肉の千切りを主としている。干し豆腐は料理人に18枚も切られ、切った乾絲はきれいだけでなく、太さはマッチの棒以下である。真っ白な乾絲にエビのむき身を入れ、各種の調味料で味付け、色が美しく、味も新鮮で美味しい。



獅子頭

淮揚料理は材料選びが厳格で、旬と新鮮さにこだわる。「獅子頭」は淮揚料理の中の名物料理で、それを作る時も旬や季節によって素材を変えなければならない。春は筍の先を入れて煮る。夏は魚のスープで味を引き出す。秋はカニを加えて新鮮さを求める。冬の白菜で煮る獅子頭はまた違う味になる。季節と食習慣の微妙な関係によって、伝統的な作り方を基にした淮揚菜は自然とともに栄えつつある。



軟兜長魚

軟兜長魚の食材は田鰻であり、田鰻を布の袋で括り、ネギ、生姜、塩、酢を入れた鍋に入れてさっと煮る。食べる時、箸で挟むと、両端が垂れ下がるので、スプーンに載せて支えて食べないといけない。田鰻の肉は柔らかくて美味で、後味がよい。



食べる時、箸で挟むと、両端が垂れ下がるので、スプーンに載せて支えて食べないといけない。田鰻の肉は柔らかくて美味で、後味がよい。

早茶文化

江蘇人の早茶料理は現代都市の速いリズムに解消されていない。古運河の畔において、正方形のテーブル、細長いスツール、一皿の干し豆腐の千切りの和え物、いくつかの蟹味噌入り肉饅頭、そして一本の良いお茶を入れて、早茶料理はこたわった儀式で人々の新しい一日のオーパニングになった。



浮世の幸福の始まり

悠久で豊富な早茶文化は江蘇泰州を潤っている。食卓の上の豊かな飲茶、伝統的な老舗、和を忘れた客、晴や雨、暑さや寒さを問わず、代々の泰州人は飲茶を食べる伝統が受け継がれてきた。泰州の飲茶のポイントは食べるのではなく、あの濃厚な人情の味である。



「一茶三点一面」は泰州早茶の古い伝統で、「一茶」は一杯のお茶に一皿の干し豆腐の千切りの和え物で、「三点」は蟹味噌入り肉饅頭、蒸し餃子、焼売で、「一面」は魚のスープ麺である。干し豆腐の千切りは新鮮でさっぱりしており、魚のスープ麺は濃厚でまろやかで、蟹味噌入り肉饅頭の味は新鮮の極みである。時間の余裕があれば、人々は茶屋で午前中まで座り込み、茶屋のベテラン芸者が拍子木を机に叩き、折り扇子を軽く揺れ、千年の歴史を弁舌に語るのを聞く。



午前の宴

揚州の早茶はよりきちんとしていて華やかである。お茶、お菓子、料理、様々な種類があり、早茶そのものは豊富な宴席である。朝の光の中の早茶の露店で、友人三、五人で暇を得て集まり、杯を握り、お菓子を食べながら、天下の大事や平凡な日常生活を話したりするのは、揚州人の生活様式が昇華したもので、本音を表す自由でもある。



三丁饅頭

シンプルな麵食は早茶の中で割に精巧に見え、色とりどりの麵類は早茶を極致まで高め、真っ白で柔らかい三丁饅頭は餡に含んでいる出汁を吸い込み、しょっぱさに甘い味がして、歯ごたえがあり、油っぽく見えるが、ちっとも脂っこくない。

翡翠焼売

翡翠焼売の皮は透き通ったほど薄く、切り刻んだ野菜の餡が中にあるので焼売全体が翡翠色に見える。最後の仕上げで先端にちょっとだけ豚肉をつけ、食感を豊かにし、焼売の味をもっとすがすがしくおいしくする。

千重油餅

千重油餅は菱形をしており、半透明で、薄いピンク色が見える。砂糖と油が幾重にも重なり、見た目がすっきりしていて可愛らしく、口が柔らかくて甘い。



水郷の旨い肴

蘇州料理は水郷の蘇州のように婉曲で優雅で、人に愛されてやまない精緻さを漂っている。旬にこだわる美味しい食材、田舎で放っている甘い野菜や果物の香り、細工した料理方法、蘇州料理の食の美学を生き生きと伝えており、蘇州料理ならではの蘇州水郷の味を育った。素朴であり、高雅でもある生気を与えている。

リス桂魚

太湖から生きている桂魚を取り、骨を取り除いた後に皮を破らないように縦や横に軽く切り、黄金色になり、肉の粒が開いたら、熱いうちに甘酸っぱいソースをかける。頭と尻尾が高く上げ、色は鮮やかで、まるで生きているリスのようである。



碧螺海老

碧螺海老は清明前の碧螺春のお茶と太湖産のエビを使い、80度のお水に入った茶の葉をエビのむき身と一緒に鍋に入れて、エビとお茶の汁の組み合わせはさすがに柔らかい口当りがする。ほろ苦い碧螺春のお茶はエビの生臭さと相殺し、かえって言葉で表せないすがすがしい香りが放り、ゆっくり噛むと、味がいっぱい広がる。



陽澄湖大闸蟹

蘇州人が蟹を食べるのは長い歴史を持ち、秋に大闸蟹を食べるのはまさに舌の先の極致の楽しみで、雌蟹は蟹みそが赤くふくらっていて、雄蟹は蟹膏が白くて艶があり、まるで白玉のようである。大闸蟹を蒸して食べるのが一番いいと言われている。食べる時は少量の生姜、砂糖、大蒜などを入れた酢につけて、この上なく美味しくなる。



太湖から生まれた料理

水面が霧に霞んで果てしなく見える太湖は中国で三番目に大きい淡水湖。その水が白銀のようで、物産が豊富で、古来より現地の人の天然の穀倉である。水辺に暮らしている歳月に、人々は天地からの贈り物を後世に美名を残した美味に調理し、清らかな水の波の中で共に人間の炊事を営む。



太湖の船料理

太湖の船料理は今から2500年以上の歴史を持っている。それは湖風景を眺め、宴を行う風雅な目的を果たすためではなく、昔の人々の日常生活に必要なものである。江蘇省は水路が発達しており、多くの古代の商売人や文人墨客は船に乗って通行するため、船で漁家の美食を楽しむのも習慣になった。



船料理は「鮮」という字にこだわっている。特に「太湖三白」が一番有名で、即ち、白海老、白魚、銀魚である。銀魚は見た目が美しく、体が透き通っていて、銀魚の柔軟揚げは高く評価された作り方で、テーブルに出された銀魚は金色に輝いており、姿がかすかに見え、一口で噛むと、カリカリと柔らかい肉がとても美味しい。白魚は肉を取り除いてひき肉にし、太湖花芽の白魚団子に作り、真っ白で繊細なひき肉が柔らかくて滑らかで口当たりがいい。それに比べて、白海老はより素朴で、お水に入れて煮たり、酒粕に漬けたりして十分においしくなる。

船料理はあっさりとした味、火加減、旬の味にこだわり、湖の中の生き物をそのまま作るほか、八宝鴨、甲魚の蒸し煮、白魚の酒粕焼き、肉とピーマンの蓮の花蒸しなどは全部半製品にして、船に運んで小火でゆっくり煮込んでいる。船は碧波の上で進み、人は絵の中で遊覧する。船料理は千年の時間を経て、依然として歴史の風雲と別になっている婉曲さと詩情を残している。





河畔の滋味が深い

長江下流中部の江蘇地区は物産が豊富で、人々に豊富な食材を提供している。水路と陸路の交通における商業・貿易の交流、濃厚な文化的雰囲気、精緻で繊細な民風・民俗、豊富な美食文化がそれらに応じて生まれた。

塩水ダック

南京は中国のアヒル肉料理の発祥地と名産地で、祝日やご馳走の時、食卓上の料理、お酒を進めるのにアヒル肉が欠かせない。アヒル肉で作った名物料理は種類が多く、その中で特に塩水ダックが一番有名である。秋に木犀の花の香りがする時は、塩水ダックを作るのに最適な時節である。そのため、塩水ダックはまた「モクセイダック」とも言われている。塩水ダックは作ったばかりなのが一番おいしい。アヒルの皮は白く、肉が新鮮で柔らかく、脂っこくなく、一口食べるとおいしさがずっと広がる。一皿の塩水ダックに一杯のお酒、尋常な生活の民俗風景であり、南京現地の人の素朴なおもてなしでもある。



船のお菓子

船のお菓子とは、「船で食べるお菓子」のことである。最初は江蘇辺りの遊覧船で流行り、アフタヌーンティーの一部となり、客が時間を潰す余興として、人々が生活の趣への美意識を表している。

船のお菓子は大部可愛い動物の形をして、精巧で小さく、生き生きとしている。鳥の羽、白鳥の白い羽、金魚の尾びれまで全部細かく彫刻されている。周りの玉石、緑の竹、牡丹も活気に満ち溢れており、まるで美しい童話の世界のようである。船のお菓子は外見が精巧なだけでなく、中も設計がある。動物のお菓子の中には肉の餡が入っているが、植物のお菓子の中には甘い餡が入っている。



水八仙

波が揺れてキラキラと輝く水の中で漂っている最も繊細な食材である。「水八仙」のトップとして、もちもちでふわふわと柔らかい芡実（あじさい）は栄養が豊富で、すがすがしい味で、人々の忘れられない季節の栄養補助物である。赤菱は殻が柔らかく、水分がたっぷりで、肉質が新鮮で柔らかく、生で食べると新鮮で口当たりが良く、調理して食べるとは食欲をそそり、脾臓にいい。マコモは繊細な口当たりで、肉と一緒に作ると、世の中に滅多にない新鮮な味をする。そのほかにジュンサイ、クログワイ、レンコン、クワイもあり、新鮮で瑞々しい味は秋から冬まで食べられる。水八仙は江蘇人の魂まで深く入り込んだ水郷の印である。



水晶肴肉

長江沿岸のもう一つの都市の鎮江では、伝統的な特色ある料理——水晶肴肉が引き継がれている。鎮江はずっと「肴肉を料理にしない」という俗語があり、豚の前足は肉が赤く、皮が白く、煮こごりが水晶のようで、口当たりが柔らかくて滑らかである。香酢と千切り生姜につけて食べると、味が更に濃厚になる。



肴肉と香酢

酢好きな鎮江にとって、酢は人々の生活に欠かせない調味料である。酢だけでは食卓の「主役」に入りにくいのが、鎮江の肴肉と出会い、一緒に食べれば、すぐに肴肉のしょっぱく脂っこい味を中和し、美食の最高のパートナーになる。



徐海の味が強い

徐海料理は江蘇北部辺りの地域的な特色料理で、穏やかであっさりとした味の淮揚料理に比べ、徐海料理の色調は濃厚で、新鮮度と塩味が適度で、より素朴に見える。食材の選択範囲が広く、肉食は五種の畜産を全部取り入れ、水産は海の幸が多い。さっぱりとした口当たりであるが、ちっとも浅くない。味が濃厚であるがちっとも濁らない。「食事療法、食事保健」の役割を重視し、調理法は煮たり、煎じたり、揚げたりするのが多く。

彭城養生

徐州は中国の調理の歴史の長い流れの中で非常に重要な地位を占めている。中国歴史上の撰生第一人者である彭祖は徐州出身だと伝えられている。歴代の有名シェフの伝承と発展によって形成された徐州料理は、歴史の息吹が厚く、まるで千百年前の先人たちと同じ味を味わっているような感じがする。

徐州地鍋鶏

徐州は南北の境目に位置しており、独特な料理風格がある。その中で最も有名な地鍋鶏は唐辛子、じゃがいも、鶏肉を混ぜて作られたものである。鍋の中のお餅は黄金色で、お餅に料理の味がついて、料理にお餅の香りがして、両々相まってますますよい味になる。



彭城魚団子

彭城魚団子は素材の新鮮さと上質さにこだわり、調理の手法は精巧で、お水で魚団子を煮て魚肉の新鮮度を確保し、切り刻んだ春雨で魚丸の滑らかで柔らかい食感を豊かにした。



海洲で海の幸を味わう

海は江蘇沿岸都市連雲港の料理の特色を打ち立てた。それは様々な海産物である。海の幸と言えば、たとえ一流の料理人であっても、良い食材がないと美味しい料理を作れない。海の上で数多くの船が先を争って前へ進み、海の幸をいっぱい持ち帰り、喜びと汗が交じり合い、人に心酔するシーンは船頭から客の食卓まで続く。



ここの魚介類は次々と現れて、漁民の心の中に四季によって変化する海の幸の地図があり時間通りに取り、人々に最も本場の海の味を献上する。春のワタリガニ、夏のクラゲ、秋の太刀魚、冬のハゼクチのスープは極めて美味しく、体にいい。魚介類に対する最大のリスペクトは味をそのままにすることであり、お水で煮るだけで「鮮」を最大限に発揮する。



CHARM OF 水韻の美食 JIANGSU DELICACIES



江苏省文化·観光庁

@Visit Jiangsu



CHARM OF JIANGSU'S RELICS AND MUSEUMS

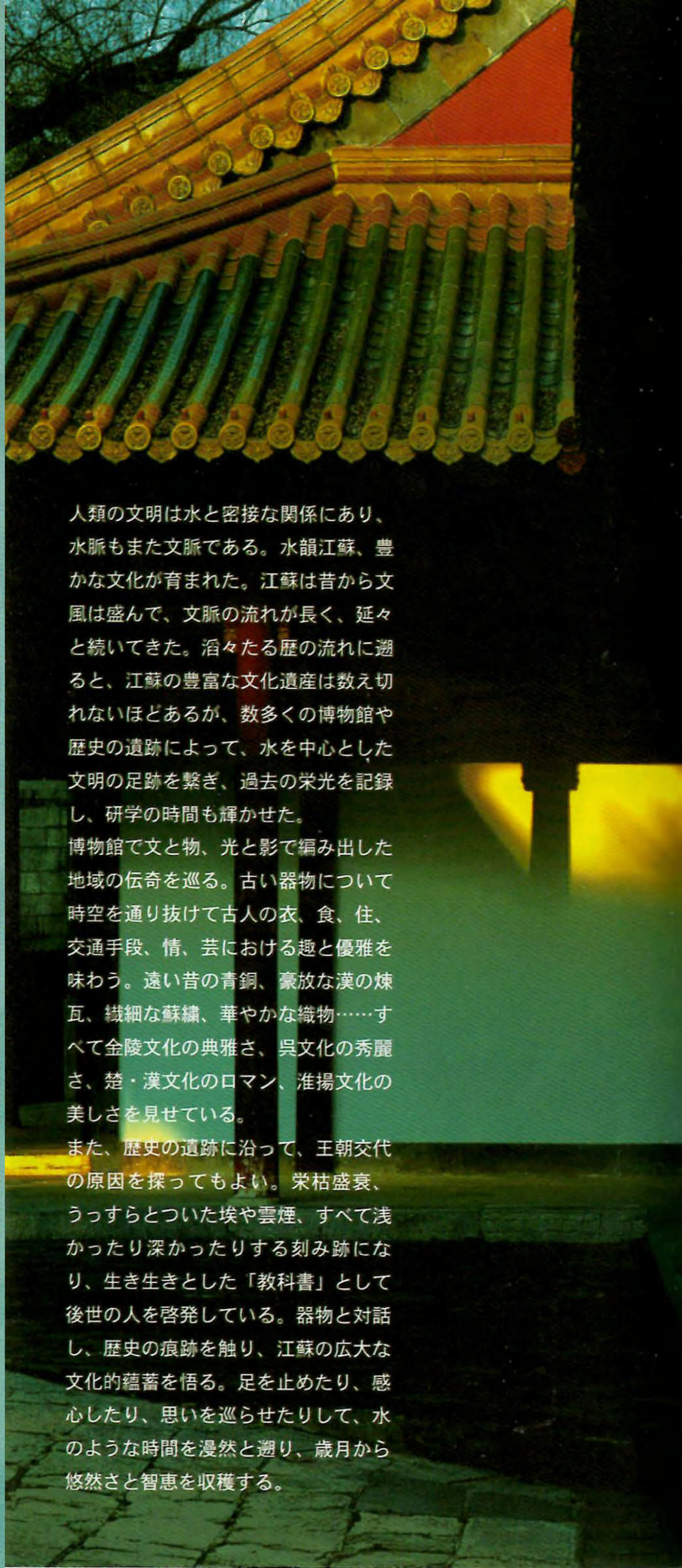
水韻の遺跡と 博物館



人類の文明は水と密接な関係にあり、水脈もまた文脈である。水韻江蘇、豊かな文化が育まれた。江蘇は昔から文風は盛んで、文脈の流れが長く、延々と続いてきた。滔々たる歴の流れに遡ると、江蘇の豊富な文化遺産は数え切れないほどあるが、数多くの博物館や歴史の遺跡によって、水を中心とした文明の足跡を繋ぎ、過去の栄光を記録し、研学の時間も輝かせた。

博物館で文と物、光と影で編み出した地域の伝奇を巡る。古い器物について時空を通り抜けて古人の衣、食、住、交通手段、情、芸における趣と優雅を味わう。遠い昔の青銅、豪放な漢の煉瓦、繊細な蘇繡、華やかな織物……すべて金陵文化の典雅さ、呉文化の秀麗さ、楚・漢文化のロマン、淮揚文化の美しさを見せている。

また、歴史の遺跡に沿って、王朝交代の原因を探ってもよい。栄枯盛衰、うっすらとついた埃や雲煙、すべて浅かったり深かったりする刻み跡になり、生き生きとした「教科書」として後世の人を啓発している。器物と対話し、歴史の痕跡を触り、江蘇の広大な文化的蘊蓄を悟る。足を止めたり、感心したり、思いを巡らせたりして、水のような時間を漫然と遡り、歳月から悠然さと智恵を収穫する。



H I S T O R I C A L S I T E S

遺跡探り

王朝時代の盛衰と交代、社会の激動と変遷、人類の文明の道程を変えたが、数多くの貴重な歴史の遺跡を残してくれた。これらの歴史遺跡は滄海の遺珠のように、残された歴史の記憶を持って古今を通して、我々を教え導いている。歴史遺跡を探り、その裏の物語を発掘する。謎を解き明かし、英雄のドラマチックな人生に近づく。古典建築の美をじっと見つめ、繁栄の時代の栄光を振り返り、江蘇の無数の歴史遺跡はお待ちしておる。これらの前代の遺物は輝かしい文明を反映し、神秘的で美しく、無限の探求心を引き起こしている。



項王故里を巡り、漢風に準える櫺建築は、一瞬で西楚の歳月に連れ戻してくれる。色とりどりの旗が風に漂わせ、狼煙と戦火に満ちた画面が目の前に現れたようである。2000年以上経っても依然として青々としていて、枝葉が高く聳えている項王の直々に植えた古い槐を仰ぎ見て、遠く昔の豊富な生活の息吹を感じる。古跡を訪ね、思いにふけるほかに、楚服ショー、楚踊りショー、西楚古楽などの歌や踊りを楽しみながら千年前の西楚の夢を見て、本当に西楚の情の純粹で濃厚なロマンチックさを体験する。



項王故里・楚漢の激変を振り返る

項王故里は「梧桐巷」とも呼ばれ、中国の有名な歴史事件である楚漢の争いの中で、指導者である西楚霸王項羽の出身地である。その年、彼は梧桐巷から家を離れ、正義の旗を掲げ、秦兵を大いに打ち破り、一時天下に敵するものなしの勢いであった。その後、亥下に敗れたが、その勇猛で豪快な英雄の気風は、今も後世に敬われている。



特色体験

- ・項府家宴：雄霸天下、鐘吾漁歌、電風天配……一品ずつ典故があり、項府家宴のすべての料理には豊富な文化的内包を与えられた。美食を味わうだけでなく、さらに西楚文化を味わうのである。
- ・楚服体験ショー：楚服を着て、古色古香の建築で散歩したり、写真を撮ったりして、また古琴、香道、毬投げ、矢を射るゲームなどの古人の情趣を体験したりして、西楚の魅力に浸る。



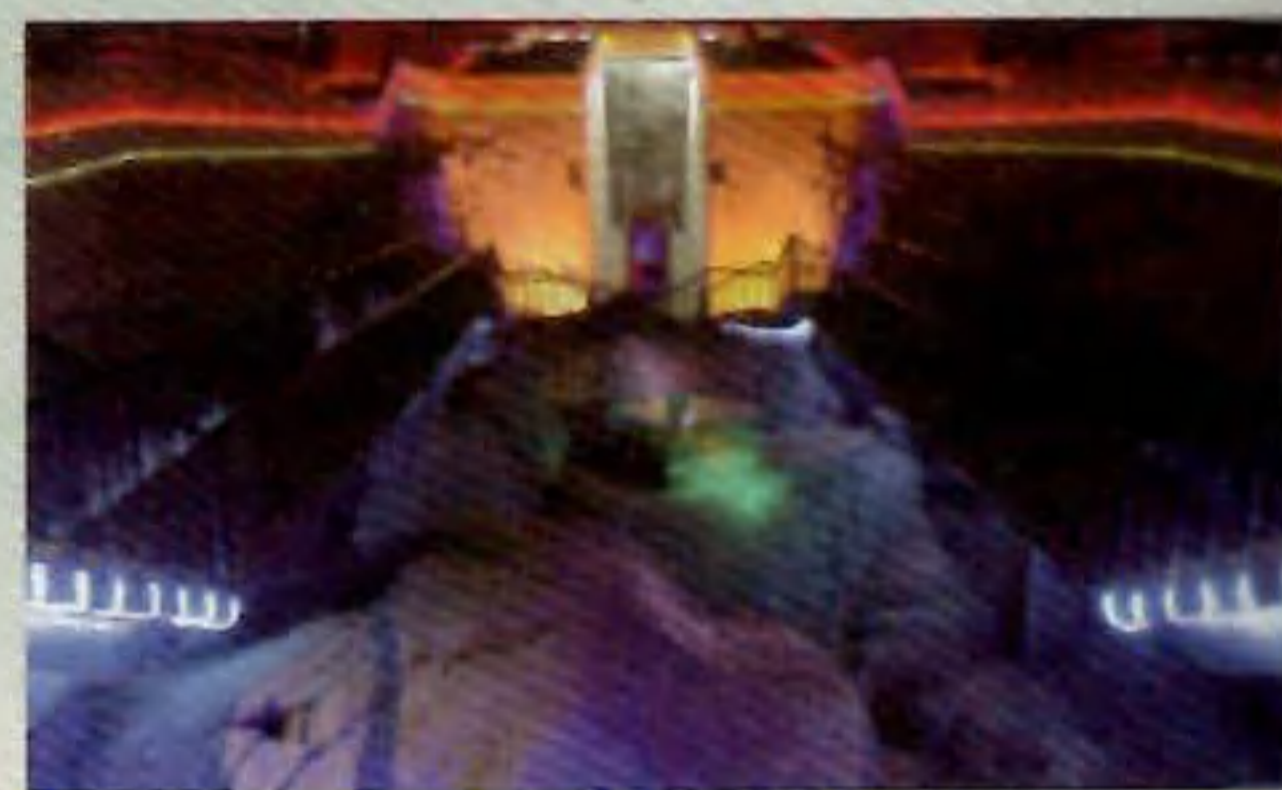
Tips

所在地：宿遷市宿城區黃河南路288号
 入場券：30元
 開放時間：09:00-17:00



漢文化観光区・ 漢韻遺風を味わう

「俑、陵、漢画もあれば、山、水、古刹もある」。漢文化観光区は立体的な漢の時代史であり、「漢時代の三絶」と呼ばれる漢墓、漢兵馬俑、漢画像石をカバーしており、両漢文化の精髓を集中的に展示しており、江蘇両漢の遺風の最も濃厚な漢文化保護基地である。



ここでは珍しい特大型西漢王陵である獅子山楚王陵が発掘された。陵墓から出土した金縷玉衣、飾り物などの文物は非常に優れた工芸で、歴史的価値は極めて高い。漢兵馬俑は西安の秦兵馬俑に続く重大な発見であり、四千余りの漢俑は本物そっくりで、水中兵馬俑とともに、漢の時代の進んだ軍事、経済、工芸の奇跡と文明を現した。この真に迫っている漢画像は江蘇三宝の一つとされており、漢の時代の風俗、宗教、礼式などの生活様式を生き生きと表している。

特色体験

・漢服体験：シンプルで優雅な漢服を着て観光区を散歩し、古典の雅楽を聞いて、堂々たる漢王朝にタイムスリップしたようである。

・無形文化遺産との対話：漢画像石の彫刻、拓本製作、印鑑篆刻及び書道の題辞と跋を体験し、漢文化の魅力を感じる。



Tips

所在地：徐州市雲龍区長馬路1号
入場券：90元
開放時間：08:30-17:00





大報恩寺遺跡公園・重々しい仏光を仰ぐ

大報恩寺はかつて中国の歴史で最も古い仏教寺院の一つで、明清時代は中国の仏教の中心であり、金色に輝く大報恩寺瑠璃塔は永樂皇帝に「天下一の塔」と封じられ、西洋の宣教師に中古世界の七不思議の一つと言われている。文献によると、歴史上、ここでは舍利仏光が七回も現れたということである。



歴史的な理由で、大報恩寺は戦火に敗れてしまい、跡地を修復して再建された。再建後の大報恩寺遺跡公園は、大報恩寺遺跡にある千年の地宮と貴重な画廊を保護的に展示し、地宮から出土した石函、鉄函、七宝金メッキ阿育王塔、金棺銀椁などの世界レベルの国宝を「中国十大考古学の新たな発見」と評価された。

特色体験

- ・「報恩盛典」实景演出：恩返しをテーマに、声、光、影の完璧な組み合わせを通して、朱棣が塔を建て恩返しする、玄奘が経文を持ち帰り翻訳する、仏陀が出家して道を悟るという三つの物語を述べ、興衰の衝撃を演出し、視覚的な宴とも言える。
- ・新春祈願遊園提灯祭り：毎年の春節には、大報恩寺遺跡公園は美しいイルミネーションに囲まれ、人々はここに来てイルミネーションを鑑賞したり、鐘を鳴らして福を祈ったり、経文を写して福を迎えたり、蓮花灯に祈願したりして伝統的な賑やかな年越しの風俗を体験する。



Tips

所在地：南京市秦淮区雨花路1号
 入場券：90元
 開放時間：09:00-17:00

春秋淹城遺跡・春秋の美文を読む

春秋淹城遺跡は現在中国で発見された最も完全な春秋時代の「三城三河」の形をした地上城の遺跡で、今から2700年以上の歴史がある。遺跡からは2000近くの貴重な文物が出土し、春秋の輝かしい文化の重要な証拠となっている。



素朴で壮観な青銅の門、百家争鳴の諸子百家園、古めかしい市井商店街、規模の広大な春秋王宮建築群…淹城に来て、一秒で春秋時代にタイムスリップできる。ここは全方位で春秋文化の叙事詩を展示する教室で、城壁と堀を見たり、文語の文章を鑑賞したり、編鐘を楽しめたり、市井を散歩したりして、その時代の民俗と風情を体験し、その時代の文化の輝きを味わう。



特色体験

- ・無形文化遺産の手作り：古代の薬草、編鐘の模様拓印、植物色染染などを学ぶ。
- ・春秋六芸：古代君子の六芸（礼、楽、射、御、書、数）を体験する。

Tips

所在地：常州市武進区武宣中路197号
 入場券：20元
 開放時間：9:00-17:00



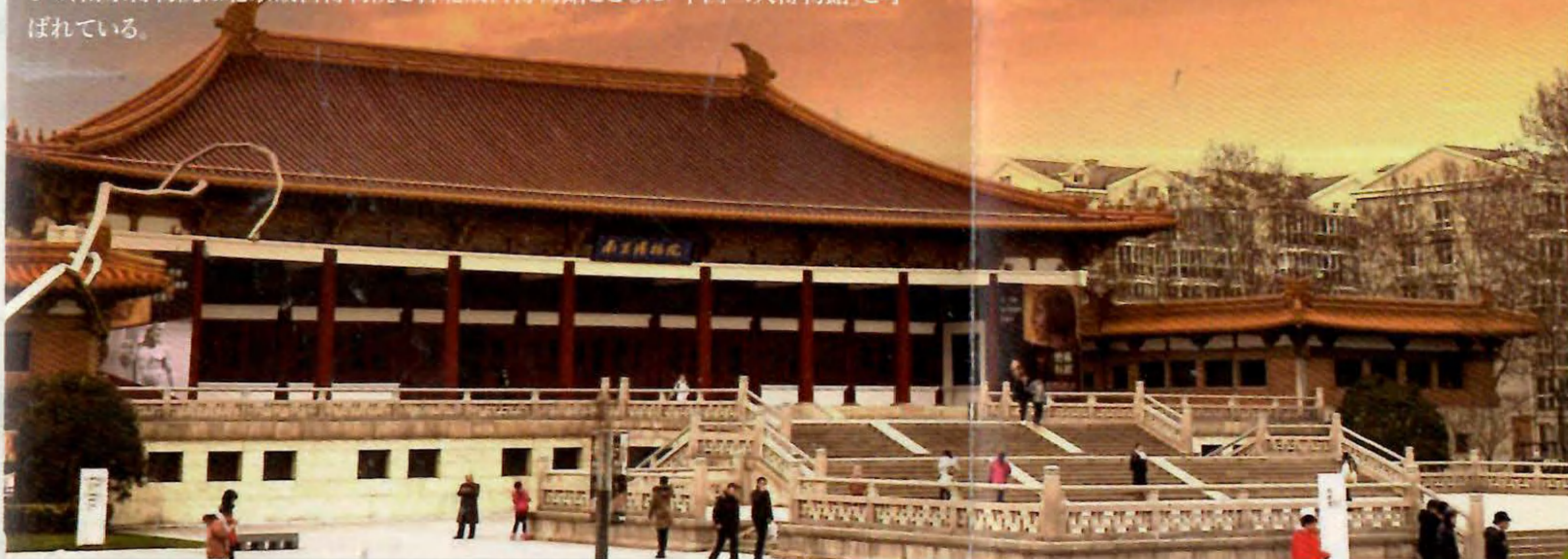
HISTORICAL ARTS MUSEUM 博物館で見物

博物館はいずれも生き生きとした気品のある建築の芸術であり、奥深く立体的な歴史書でもある。文明の印を保存し、歴史の真実を再現している。文物は物を語っている。博物館を歩き回ると、物や器がそれぞれ物語を持っているようで一つずつ時代の記憶を呼び戻している。ここは、歴史教室そのものである。江蘇は数多くの博物館があり、散り落ちた星のように点々と輝いている。ゆっくりとその中を歩いていると、地方風情に満ちた長い歴史の絵巻を開いたように、広大で夥しい歴史はこのわずかの空間や時間で濃縮されて広がっており、一目で千年の多彩な文明を尽くすことができる。



南京博物院・中華文明の生きた標本

紫金山に背中を向け、中山門の隣にある南京博物院はここで隠遁生活をしている豊かな学識を持つ老人のようで、古都の風雲を淡々と見ている。第一陣の国家一级博物館として、南京博物院は北京故宫博物院と台北故宫博物院とともに「中国三大博物館」と呼ばれている。



博物院全体は「一院六館」の構造で、立派で典雅な設計で、収集した各種貴重品は43万件以上(セット)に達している。旧石器時代から現在に至るまで、全国的なものもあれば、江蘇地域的なものもある。宮廷の昔から伝わったものもあれば、考古学の発掘品もある。青銅、玉石、陶磁器、漆器、絹織物の刺繍、書画、建築遺物などの各種の文物品目が揃っている。洋洋として見るべきものがあり、江蘇歴史の文物と標本になり、更に中華文明の歴史と発展の直接的な証拠である。



特色体験

- ・南博講堂: 毎回、学者や専門家を招いて講演し、文物の持つ物語を紹介していただき、歴史の謎を探る。古今の話を語り合い、非常に面白みがある。
- ・無形文化遺産の演出: 無形文化遺産を生活の中に入らせ、人による伝承を実現させる。南博の無形文化遺産劇場ではよく曲芸、戯曲の展示と演出。習俗の交流展示を行い、観光客が積極的に参加している。
- ・民国風情街: クラシックカー、ネオンストリート、旧式映画館、茶屋……南博の地下民国風情街は昔の賑やかさを完璧に再現し、ネット有名人の民国アンティーク風のインスタ映えスポットとなっている。



Tips

所在地: 南京市玄武区中山東路321号 | 入場券: 無料
開放時間: 09:00 - 17:00 (16:00にて入館停止)
月曜日休館(月曜日は国家の法定祝日に合わせて終日開放される。除夜、元日は休館する)

蘇州博物館・蘇州式美学境地

蘇州博物館は1960年に創立され、近代的な博物館の建築、古い建築、革新的な山水庭園を三位一体にした総合博物館である。博物館の新館は有名な中国系建築家のイオ・ミン・ペイによって設計され、真っ白な壁と黒い瓦の伝統的な要素、創造性に富んだ山水庭園の趣、自然光線との融合、青白いシンプルな格調、この博物館そのものが貴重な「展示品」になっている。

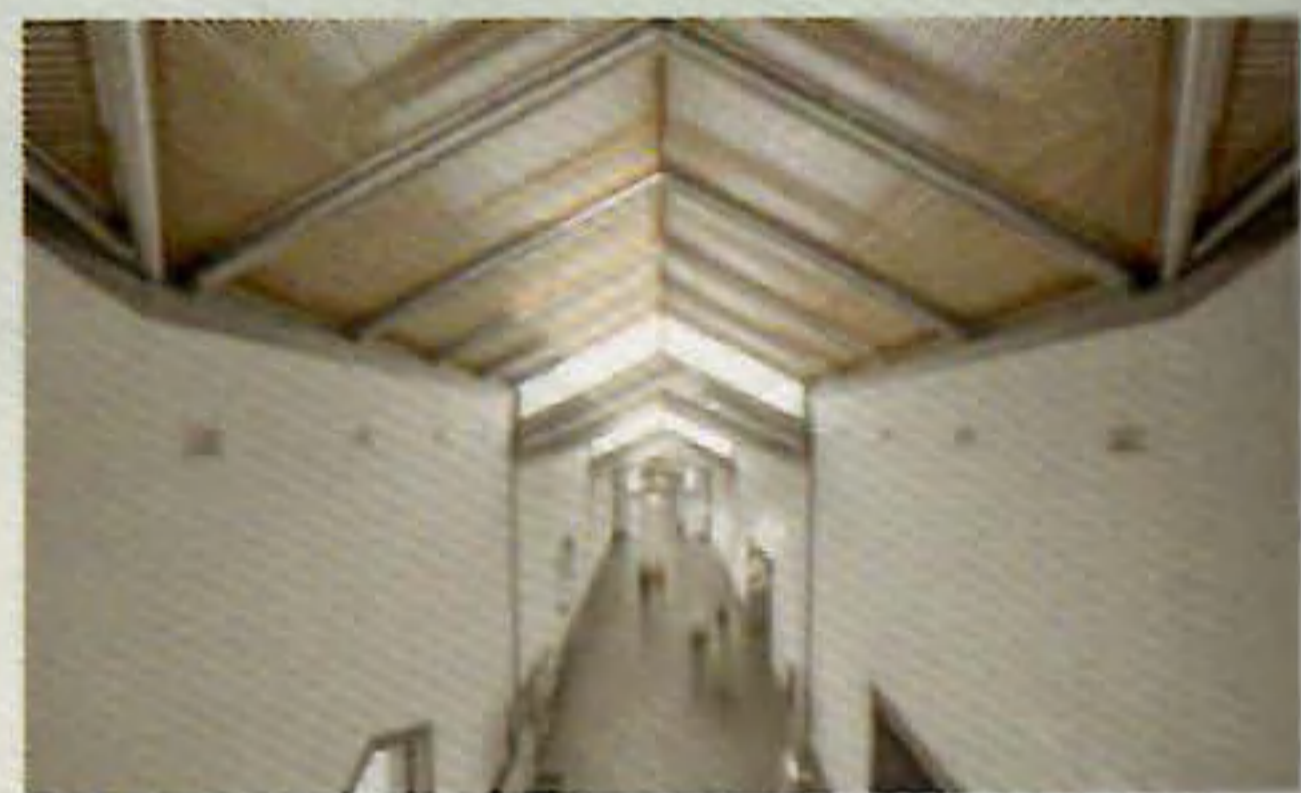


蘇州博物館に入ると、まるで古代の写意山水画に身を置いたようで、造景には至る所に工夫が凝らしている。ここの保存されている文物は4万件以上に達し、多くの「異地遺珍」をカバーしており、呉の文化を最も体現できる展示館である。一部のテーマイベント期間中、蘇州博物館はまた夜の見学を開放し、多様な伝統文化体験をもって古今を貫くナイトミュージアムを作っている。



特色体験

- ・建築の美! 中軸線にある北部庭園では、ロビーガラスを通して江南の水の景色の特色を見られるだけでなく、庭が北の壁を隔てて直接に拙政園の補園につながり、新旧の庭園が一体となっている。
- ・夜遊びの美! 観光客は蘇州博物館でふらふら歩き、壺投げや焼き絵の茶などの伝統的な活動を体験し、古人の生活の快適さと上品さを楽しむ。



Tips

所在地：蘇州市姑蘇区東北街 204 号

入場券：無料

開放時間：09:00-17:00(16:00 にて入館停止)月曜日休館(国家法定祝日を除く)

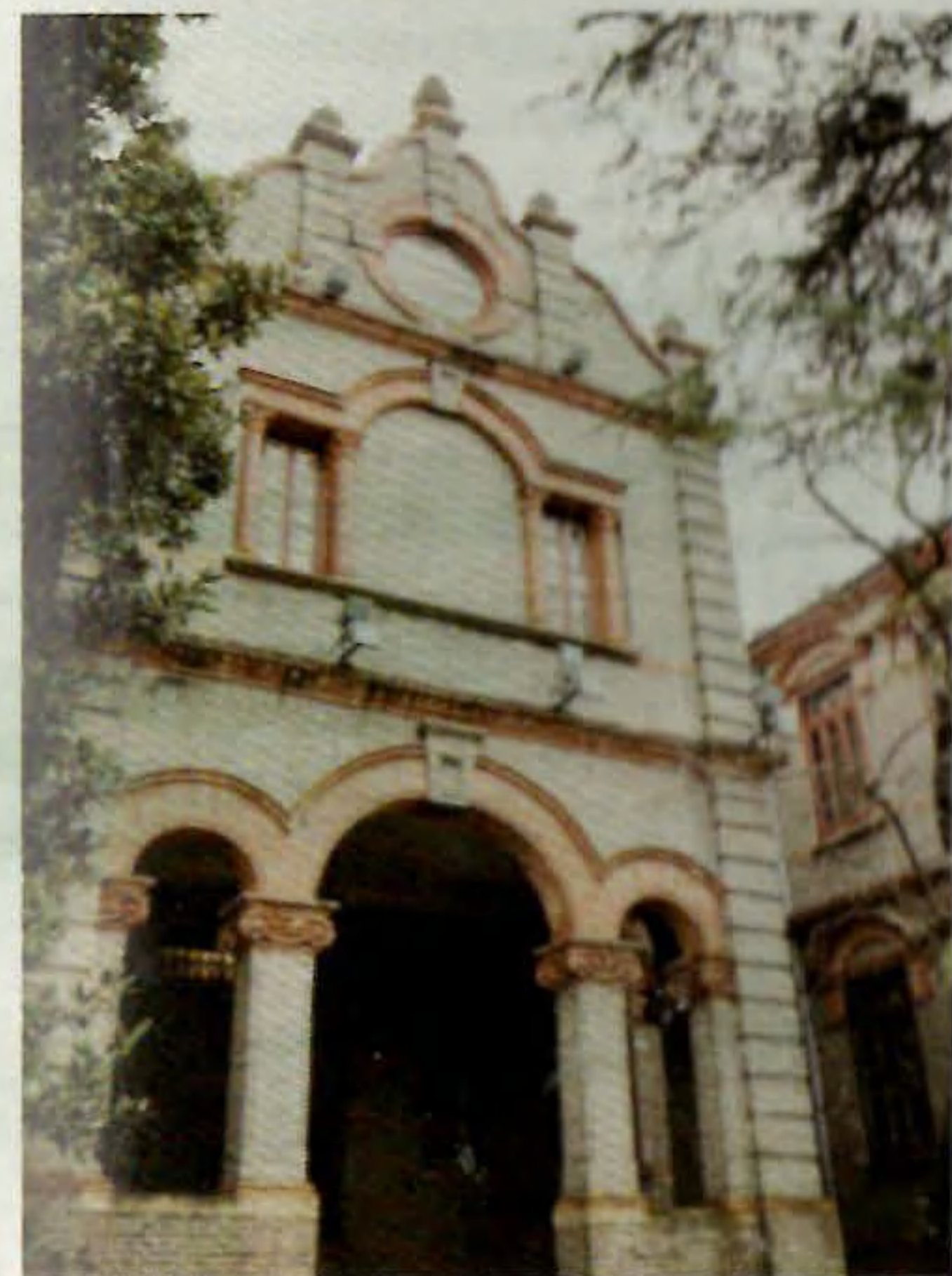


CHARM OF JIANGSU'S RELICS AND MUSEUMS

水韻の遺跡と 博物館

南通博物館・初の公共博物館

南通博物館は近代実業家の張謇によって創立され、中国初の中国人自主的に設立した公共博物館で、独特な庭園式の博物館でもある。再設計した南通博物苑新館には約5万点の収蔵品があり、日本から購入したトヨタ産の機械織機が一台ある。この織機は南通紡織業の発展の歴史的遺物で、当時の繁栄した機械時代を追憶させられる。



博物苑内には張謇の旧居が残っており、張謇を記念するために内部復元が行われた。毎年四月になると、張謇旧居の前にある二本の百年紫藤が満開になり、たくさんの観光客を引きつけている。紫藤を辿って旧居に入るのはタイムスリップのような感じで、張謇と南通の物語が一つずつ目の前に現れてくる。



特色体験

・古典庭園：博物苑は本館の外にあり、藤東水亭、遲虛亭、竹平安館、風車、水塔などの景観型建築をたくさん設計した。その中を通り抜けると、江南の古典庭園を歩いているような錯覚がある。



・歴史建築：張謇の旧居は全体的に中国の伝統的な住宅の建築スタイルを主にして西洋の建築装飾手法と相まって、中西折衷、静寂で典雅な美しさを表している。



Tips

所在地：南通市崇川区濠南路19号

入場券：南館+濠南別業10元/人；園区、新館及び他の展示ホールは無料。

開放時間：4月-10月05:30-18:00 11月-3月05:30-17:00(庭園)、09:00-17:00(展示ホール)、
月曜日休館(国家の法定祝日を除く)



江蘇省文化・観光庁

@Visit Jiangsu



CHARM OF JIANGSU'S WORLD HERITAGE 水韻の遺産

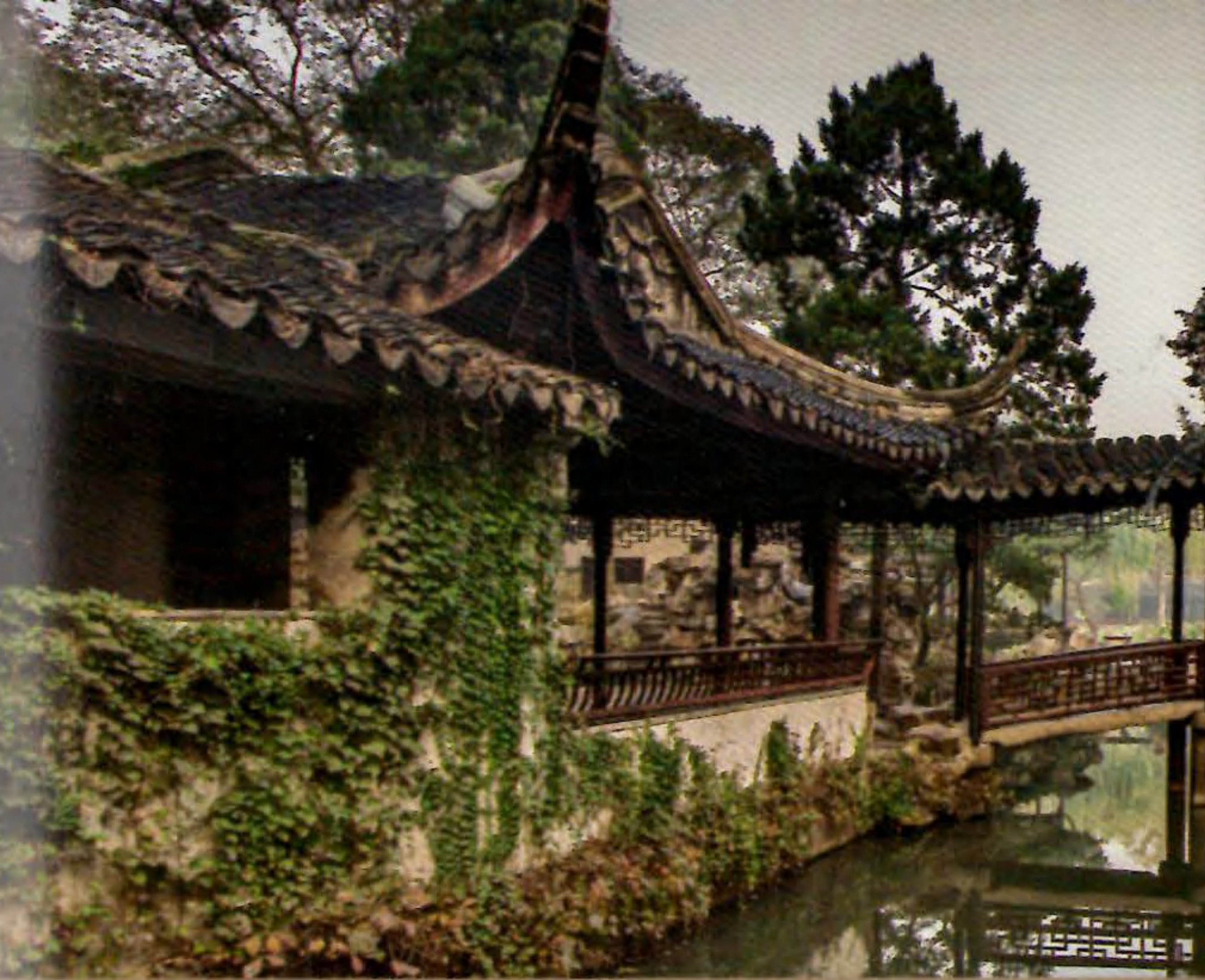


江蘇は中国の東部に位置しており、川に近く、海に臨んでいる。歴史は悠久で、昔から政治、経済、文化などの面で中国で最も発達している地域である。雄大な長江、広大な黄海、延々と続く運河、どこまでも続く太湖、異なった気質の水がお互いに融合し、光り輝く世界遺産を醸し出している。

中国大運河は世界で一番距離が長く、一番早く建設された人工運河である。江蘇段はその始まりで、千年の間の食糧運送の輝きを記録しており、今もなおこの蒼茫たる大地を流れる雄大な史詩を描いている。運河の沿岸で、人々は中国人の最も理想的な庭園を見つける。数多くの繁華街に隠れている古典の庭園、狭い空間での大きな境地、山の強い意志、水の柔らかな美を完璧に融合した。

鍾山の麓にある明孝陵はいかにも莊嚴で、帝王の永眠の地として、中国の百年余りの歴史の移り変わりに関連している。歴史や人文を越え、広大な海洋に向かうと、塩城の黄(渤)海渡り鳥生息地では、群れを成しているトナカイは干潟で走っており、美しい姿をしている丹頂鶴は赤いヨモギの叢でひらひらと舞い踊っている。

人の寿命よりずっと長い世界遺産は、今日と歴史を繋ぐ絆となり、人々を連れて時間の微塵を通り抜けて、歴史の奥に身を置く精神の源となっている。



CLASSICAL GARDENS OF JIANGSU 江蘇古典庭園

建築は固体の歴史である。庭園もそうである。16-18世紀に建てられた江蘇の古典庭園は、その精巧で手の込んだ彫刻によって、中国文化の深い境地を映している。庭を造るのは夢を作るのと同じ。あずまやや楼閣、池や築山、樹木や花々を主として、回廊、小橋、曲がりくねった小道、碑刻などを加え、庭園を通して、人々は過去の中国の文人の憧れた詩意の人生を覗いている。

Tips 1997年に蘇州古典庭園は「世界遺産リスト」に登録した。

拙政園

拙政園は中国四大名園の一つであり、蘇州庭園の一位を占めている。明朝の有名な画家文徵明は画家の美意識をもって、伝統的な描き方で拙政園のレイアウトを描き出した。まばらではっきりしていて天然に近い拙政園は中国山水画の美しい境地を完璧に体現した。



水景の巧妙さ

水は拙政園の魂で、園中の多くの小さい見所は水と互いに照り映え、巧みの極みである。小飛虹は庭園の中で極めて珍しい廊下橋で、水面と陸地を繋ぎ、橋を中心にした独特な角の景観を形成した。聽雨軒は雨の雫が庭の植物に落ちる多種多様な音を巧妙に利用し、遙かに深い境地を造り出す。



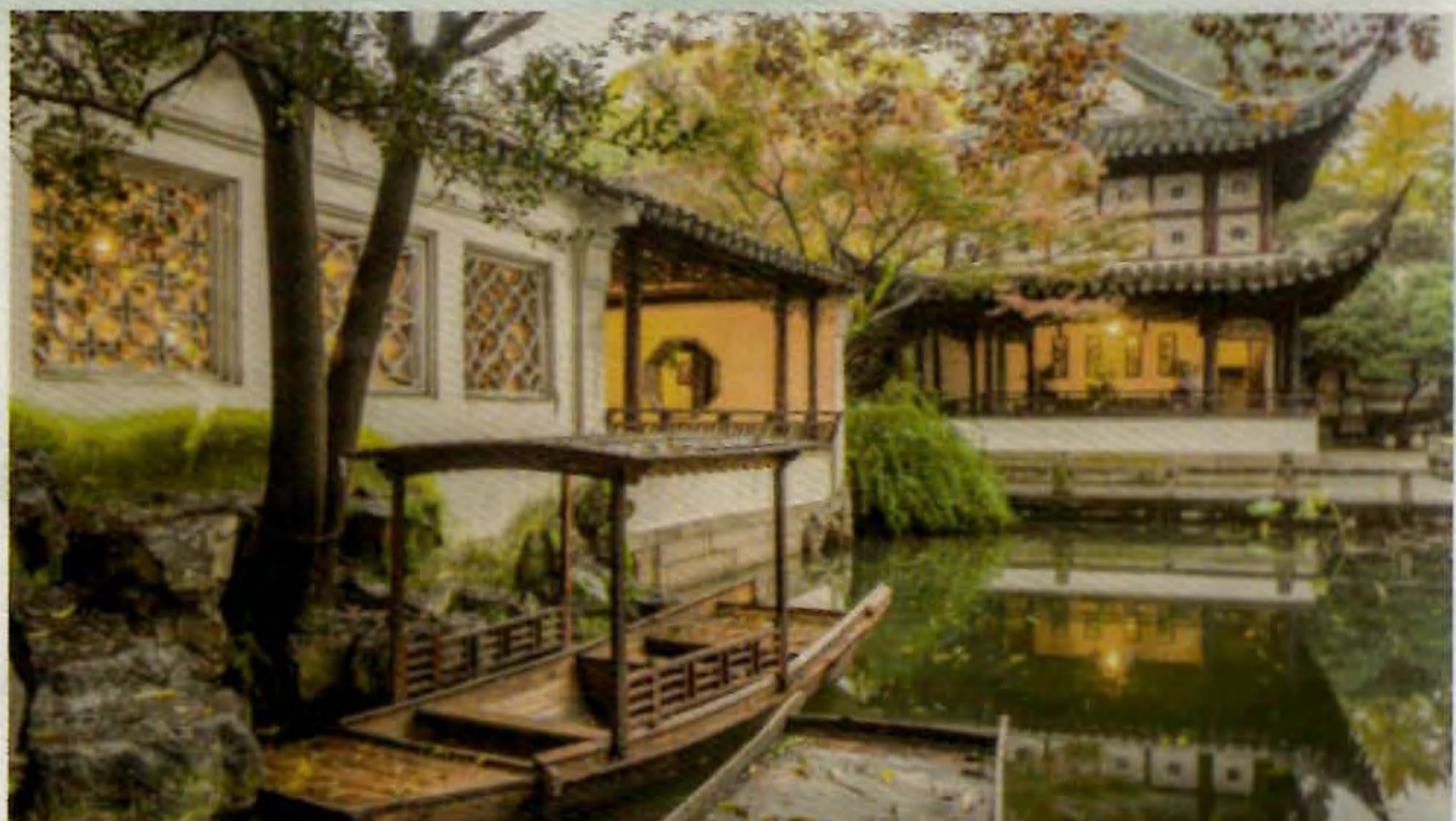
留園

留園は閶門の外に位置し、中国の明朝に建てられ、建築芸術の完璧さで有名である。広々としていて華麗な広間、変化に富んだ庭、特に園中の太湖石「冠雲峰」は逸品とでも言える。700メートル以上の回廊は、壁に沿って曲がりくねっており、「園の中に園があり、景の外に景がある」という芸術空間を構成した。蘇州庭園の中で独自に一家をなしている。



「漏れた」風景

留園は技群の造園技巧によって、「足を運ぶと景が変わる」の境地を作り出した。これは漏れ窓で余すところなく体現している。留園の中の漏れ窓は、煉瓦彫り式、瓦重なり式、めったに見えない木製のがあり、漏れ窓の美は「漏れた」風景にあり、絶えず変化する風景は窓を通して流れ込み、国内外の素晴らしい景色を結び付けた。



網師園

網師園は中国の南宋時代に建てられ、車馬の往来の盛んな繁華街の中に隠れており、あずまやや高殿はいずれも水と繋がっている。コンパクトなレイアウト、秀麗な外見、その美しさがまさに含蓄の極めである。蘇州の庭園で一番小さいのであるが、庭園の専門家に「小さいが極めて整っている」と評価され、最も体裁よく、整っている庭園と言われている。



夜の花園

網師園の精巧さは夜遊びにぴったりである。園内をぶらぶら歩くと、広間はいずれも驚くべき美しい演出が隠れている。昼間の精緻さに比べ、夜の中の網師園は独特な趣がある。竹園に隠れた曲、朱棧いっぱい踊り、楽器の音の中、水袖がひらひらと飛び舞う中、恰もタイムスリップのように、曲を聞きながら園中の風景を楽しみ、園中を歩きながら曲を聞く。ついにうっとりしてしまう。

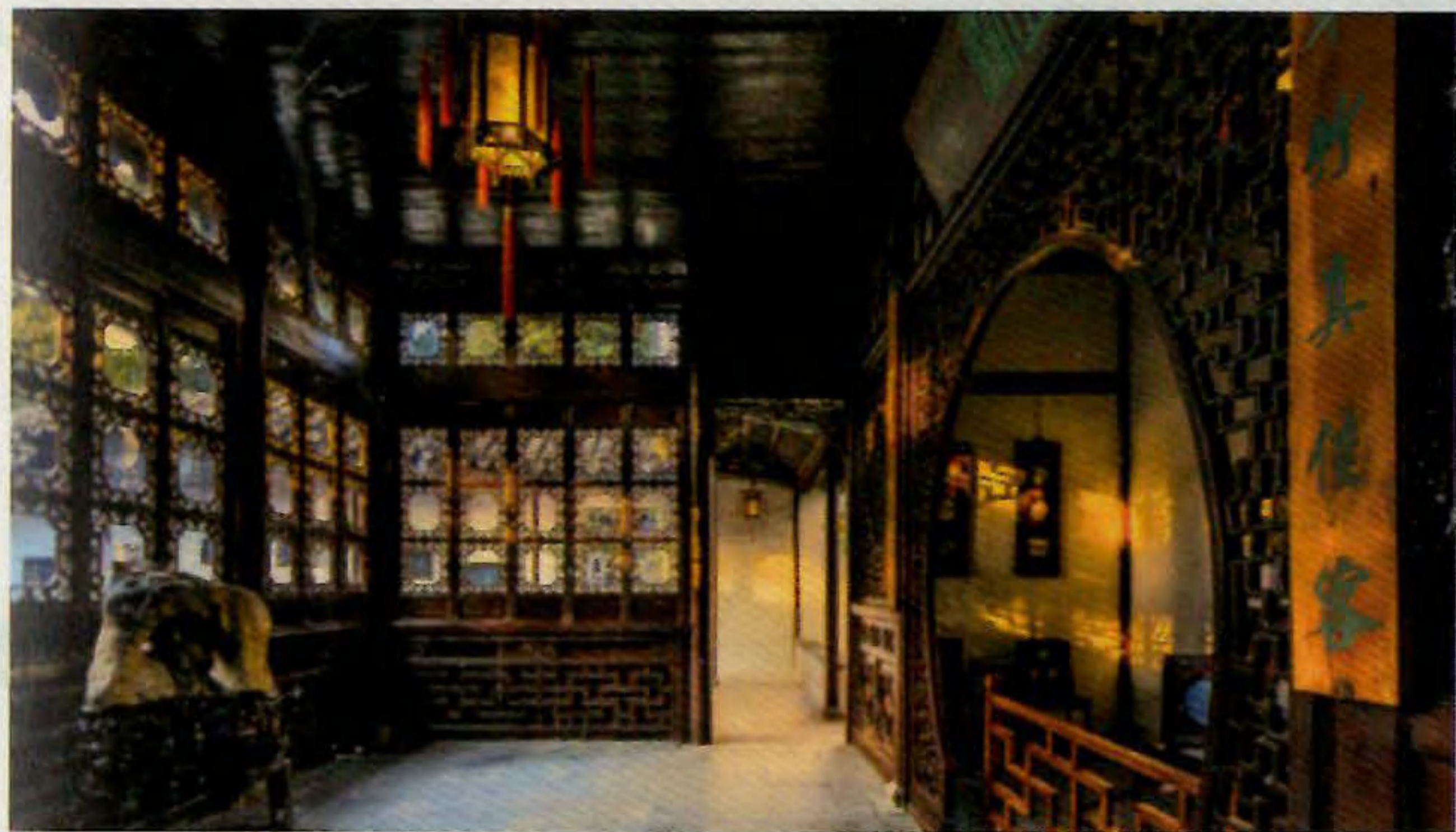


獅子林

獅子林は蘇州で現在唯一残された中国の元の時代に建てられた庭園で、園内は築山が多く、様々な奇妙な形をしている太湖石がその上に分布しており、獅子のようで、また、お経の中で「獅子が吼える」という特別な意味から、仏門の子弟によって作られた古典庭園は「獅子林」という称号がある。

築山王国

石を積み重ねて山を作るのは蘇州の古典庭園の中で自然景観を真似るよくある手法で、獅子林の築山の規模は非常に大きく、しかも曲がりくねって複雑であるため、「築山王国」と称えられている。多くの千姿百态の太湖石は獅子の姿をして、横たわったり、立ったりして、大きいのも、小さいのもあり、怒っているのも、熟睡しているのもあり、目が眩むばかりである。

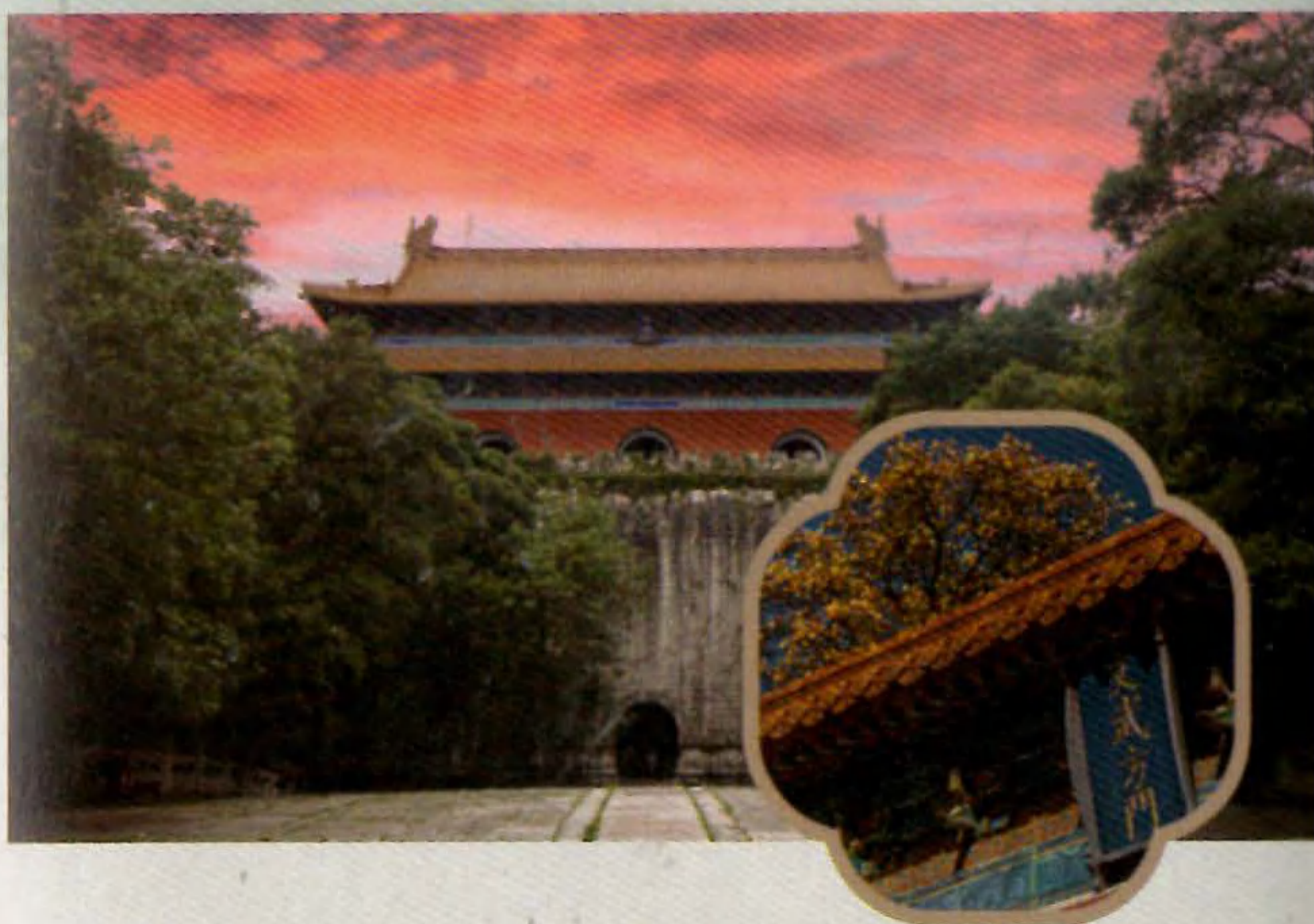




古代中国は数多くの複雑な規制と礼儀を持っており、封建統治者が皇室の葬儀と規模に極めて高い要求があり、明・清王朝の皇帝墓群は葬儀文化の最高峰に到達した。

明陵の始めとする明孝陵は、その制度は明清両朝の20以上の帝王陵墓建築の様式と全体的な風格を定めた。また、明孝陵は伝統的な風水理念に従って、人文と自然との調和を取って統一したもので、中国の伝統的な文化・建築芸術と自然環境を結合した見本である。

Tips 2003年に明孝陵は「明・清王朝の皇帝墓群」の拡張プロジェクトとして「世界遺産リスト」に登録した。



神道探索

明孝陵は明朝の皇帝朱元璋と皇后が眠る陵墓であり、墓主の高貴な身分を体現するために、陵墓の前に「神道」を設置した。600メートルの神道は曲がりくねって奥深く、厳かでしめやかで、六種の石獣が面と向かって立ちこみ、それぞれ特別な意味を含めている。一番美しい季節は晩秋で、淡い褐色の梧桐、赤のケヤキ、黄色い銀杏が互いに照り映え、両側に静かに佇んでいる石像に見守られて神道を歩き、秋を鑑賞する人はもう絵の中の風景になった。



中国大運河 (江蘇段)

絶えず流れている大運河は中国人と自然が共に作り上げた壮麗な奇観で、江蘇省はその発祥地であり、沿岸文化が最も多く残っている省でもある。繁華な都市が次々と誕生し、古い都市の印の裏には、現代都市が照り映える光があふれている。



Tips 2014年に中国の運河は「世界遺産リスト」に登録した。

揚州古運河

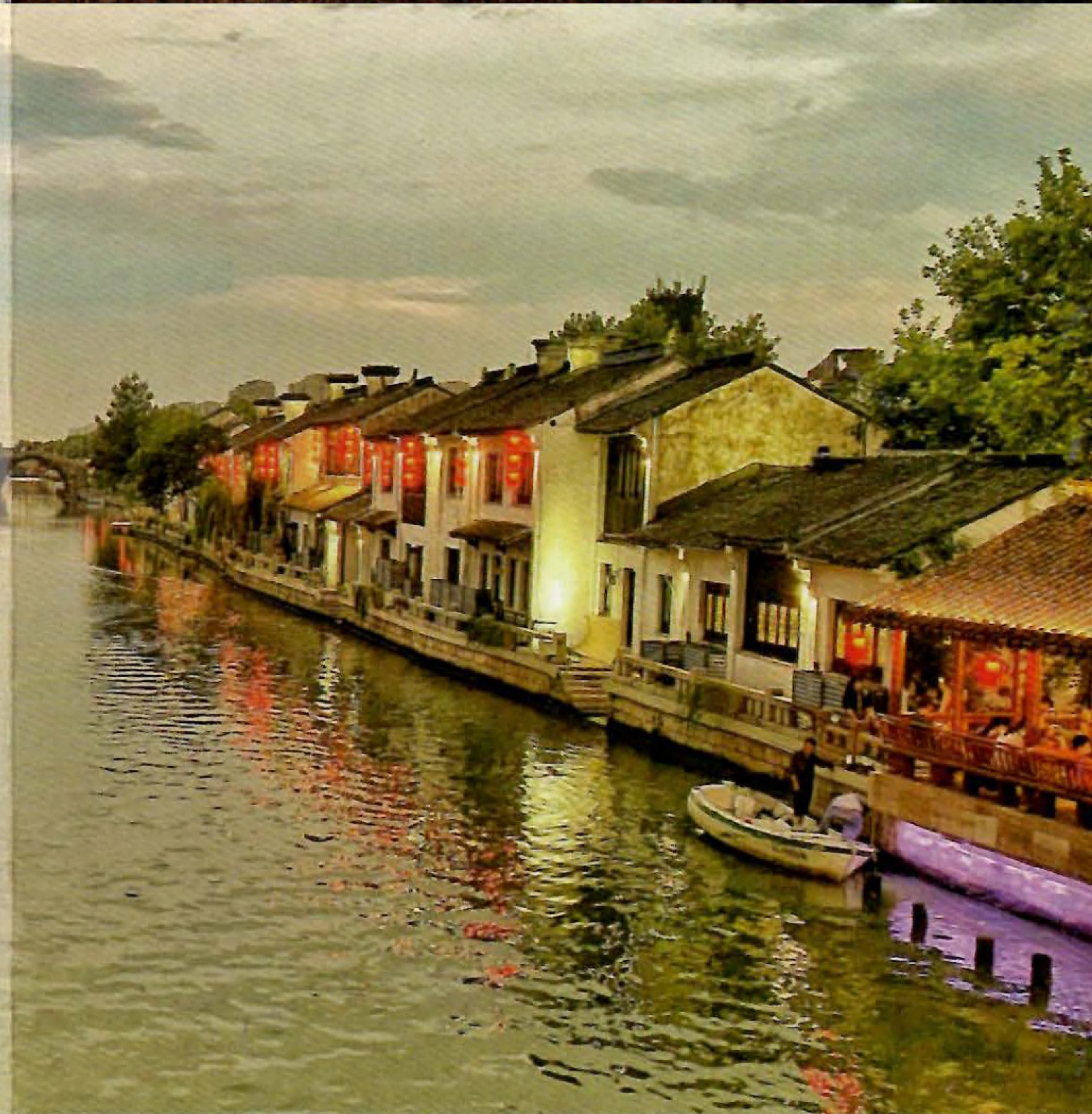
紀元前486年、呉王夫差は邗溝を掘り、人類最古の人工運河を開削した。揚州もそのため、大運河の発展する原点になった。悠々たる長江の水が引き込まれ、集散と流通の間に、揚州は大きな変化と繁栄を迎えた。



瘦西湖

運河での行き来は、揚州城の豊かさと豪華さを育んだ。運河沿いに極めて精巧な庭園が数多く建てられた。瘦西湖は純粋な天然風景ではなく、豊富な歴史と文化が無限の天然の趣に化した。長堤春柳、白塔晴雲、二十四橋などの景観が次々と現れ、天然の水墨画の長い絵巻がゆっくりと開いてくれる。





清名橋歴史ストレート

古運河無錫段は全体大運河で唯一城を通り抜ける河段で、清名橋は古い運河の歴史の証人である。400数年来、橋の上では人が行き来し、橋の下では船がスムーズに通航している。無錫古運河の最も輝かしい景色を集めた。兩岸の人家は川に沿って家を建て、民家は右も左も真っ白な壁と黒い瓦、チェック柄の木製の窓、前は店舗で後ろは踏地で、濃厚な運河人家の雰囲気漂い、「運河の絶版地」と称えられている。



山塘歴史文化街

絶えなく流れている運河の水は蘇州の繁栄を育み、山塘河はかつて大運河蘇州段の主な航路であった。今日の山塘街を歩いていると、依然として賑やかで、古い物語はここでいつも新しく語られている。人々は夜の真趣園で庭園と昆曲の融合を鑑賞できる。悠々とした笛の音、ゆらゆらとした水袖、数千年の蘇州の風情が生き生きと語られている。



平江歴史文化街

平江路では水郷の伝統的な建築様式を完璧に保存されている。真っ白な家屋は高さがまちまちで、櫓漕ぎ船がゆっくりと橋を通り抜けている。ここは蘇州の都市発展の縮図で、目の前は国際都市の繁栄で、裏は千年も続いてきた歴史である。人々は川辺で洗濯をしている原住民が見られ、現代の雰囲気富んだギャラリーや展示館も見られる。生活の姿は平江路で多様的である。



里運河文化長廊

淮安は「運河の都」と言われている。この都市の盛衰と繁栄は大運河と深く関わっている。里運河は清江浦古渡から長江に合流し、淮安千年の運河文化を記載している。今は千枚の帆が先を争う勢いが消えてしまい、繁華街に隠れている。里運河文化長廊の「南の船や北の馬、舟を捨てて上陸」という石碑は昔の繁栄を示している。清江大閘、御埠頭など運河文化の遺留は運河の都に少し荘重さと伝奇的な色彩を加えた。



竜王廟行宮

大運河の要衝の地と重要な交通ノードとして、運河は宿遷に独特な人文価値を作り上げた。ここはかつて古代の帝王が南方を視察する必ず通る場所であり、乾隆帝は江南へ六回行幸したが、五回もここで足を止まり、亭と碑を立て、行宮を建築した。そのため、竜王廟行宮はまた「乾隆行宮」と呼ばれている。300年以來、竜王廟行宮はその長い歴史で、多くの国内外の観光客と学者の観光と研究を引きつけている。



中国黄(渤)海

MIGRATORY BIRD SANCTUARIES
ALONG THE COAST
OF YELLOW SEA BOHAI GULF OF CHINA

江蘇は700キロメートル以上の海岸線があり、延々と続く海岸線では、塩城湿地は500キロ以上をカバーしている。中国黄(渤)海渡り鳥生息地は一番よく知られている湿地景観である。ここは東アジア・オーストラリアの渡り鳥の移動経路における重要なハブであり、世界で最も多くの生物種を有している湿地生息地と生態系である。

Tips 2019年に中国黄(渤)海渡り鳥生息地(第一期)が「世界遺産リスト」に登録した。

不思議な動物王国

毎年の春や秋になると、条子泥湿地はいつも通りに数万匹の渡り鳥を迎えている。中にはラシギ(IUCN等級は極めて危険である)、黒面鈍鷺、ニシハイロベリカンなどの珍しい鳥がいる。潮が満ちたり引いたりして、青い空と白い雲の下の静かな砂浜は、まるで空の鏡の如く、夢であり、幻である。



また、湿地の自然保護区には二種類の神話的な古い生物、丹頂鶴とシフゾウが生息している。ここに足を止めると、まるで億万年前に生命が誕生した時の様子を見ているようである。シフゾウのユウユウとした鳴き声は鶴の舞とともに湿地の恒久的な魅力を解明している。



無形文化遺産は人類の無形文化遺産で、鮮明な地域的な特色に富んでいる。文明の窓のように、長い歴史の流れの中の素晴らしい瞬間を見守っている。それを通じて江蘇が芸術・文化思想における進歩を見られ、先人たちが残した貴重な財産に感心する。

雲錦

中国古代の絹織物の中で、「錦」は最高技術レベルの織物で、その錦の中で最も高貴なのは雲錦である。「雲錦」という名称は中国の清の時代に遡る。精巧な工芸技法、綺麗で華やかな図案、まるで空の雲のように格別に美しいため、「雲錦」と名付けられた。



Tips 2009年に南京雲錦織の職人技はユネスコ人類無形文化遺産リストに登録した。



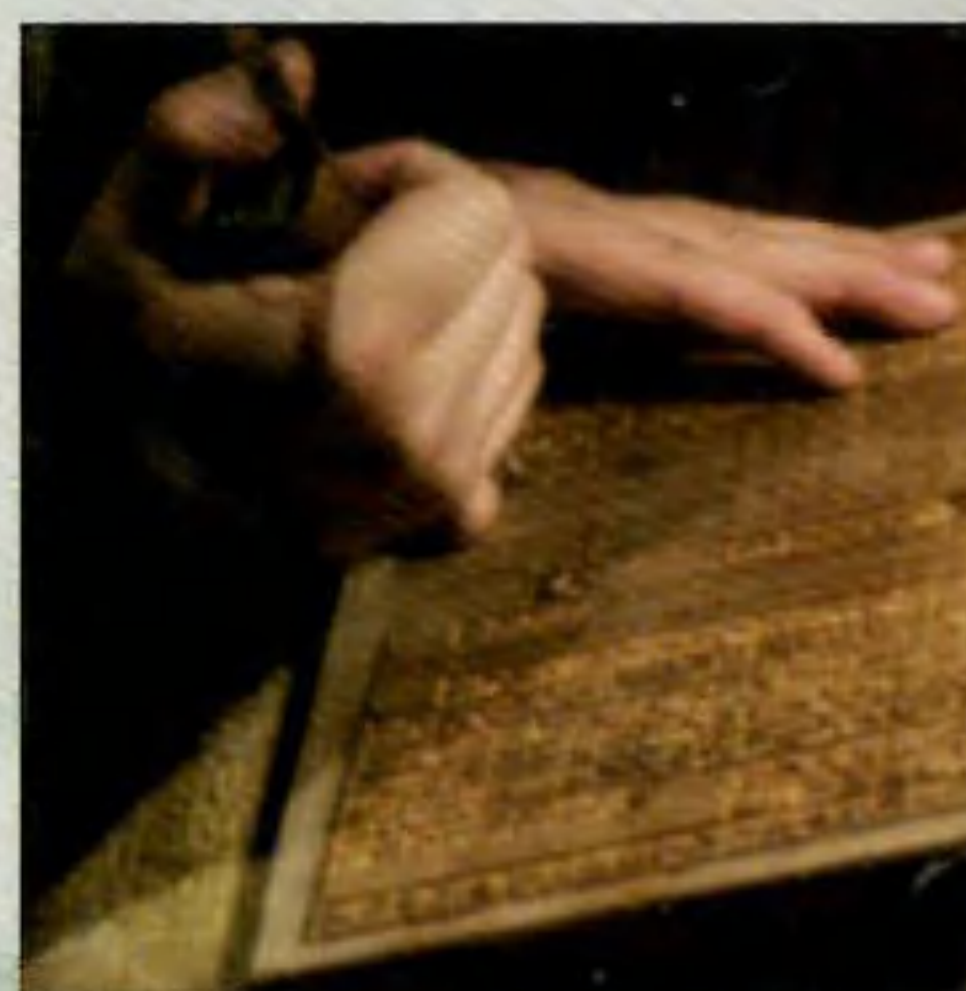
昆曲

昆曲は別名「昆劇」といい、「百劇の祖」とも呼ばれており、14世紀の蘇州昆山に源を発した。600年の歴史を持つ昆曲は、永遠に幕を降ろさない長い劇のようである。上品な衣装、悠々と流れる笛の音、目つき、仕草、変化し続けるシーン、人物の変遷、全ては江蘇ならではの美しい物語を唱えている。風雅の美は江蘇の数千年の文化的な趣向と上品さを見事に表現してくれる。

Tips 2001年に昆曲はユネスコ第一回「人類の口承及び無形文化遺産代表作」に登録した。

彫版印刷

1300年以上前に、彫版印刷は中国で誕生した。この誕生から作成まで全て素手の腕で作られる古い技術は江蘇でしか保存されていない。現代の職人は彫版印刷によって、過去の文字や彫刻を再現し、普通の読書も懐古的な気分となる。



Tips 2009年、中国雕版印刷技藝は「世界遺産リスト」に登録した。

江蘇省他の世界レベルの無形文化遺産リスト

- ・ 古琴
- ・ 伝統的な木造建造物
- ・ 切り紙
- ・ 蚕糸絹織物（緯絲、宋錦を代表とする）
- ・ 端午節の習俗

水韻の遺産 JIANGSU'S WORLD HERITAGE



CHARM OF JIANGSU'S ANCIENT TOWNS

水韻の古鎮



江蘇で、美しくて豊かな水郷の古い町は昔から人々の憧れの地で、小橋と水の流れ、真っ白な壁と黒い瓦、煙のような柳と上絵を施した橋、古鎮の美は至る所に見られ、分かりやすく生き生きとしている。川に面した庭で、長い竹竿の上に色とりどりの服が干されて風に揺れ動いている。壁の隅の魚籠についている新鮮な水草が暖かい日差しに照らされてきらきら光っている。細長い川の道では、藍染めの服を着た船娘が櫂を漕いで、船をゆっくりと進めており、素朴な短調がさらさらと流れていく水と相まって飽きもせず聞こえてくる。生活の中の些細なことで繋いだ日常こそ、古鎮の魅力である。人と景が一つになり、古鎮に独特な魅力を与えた。

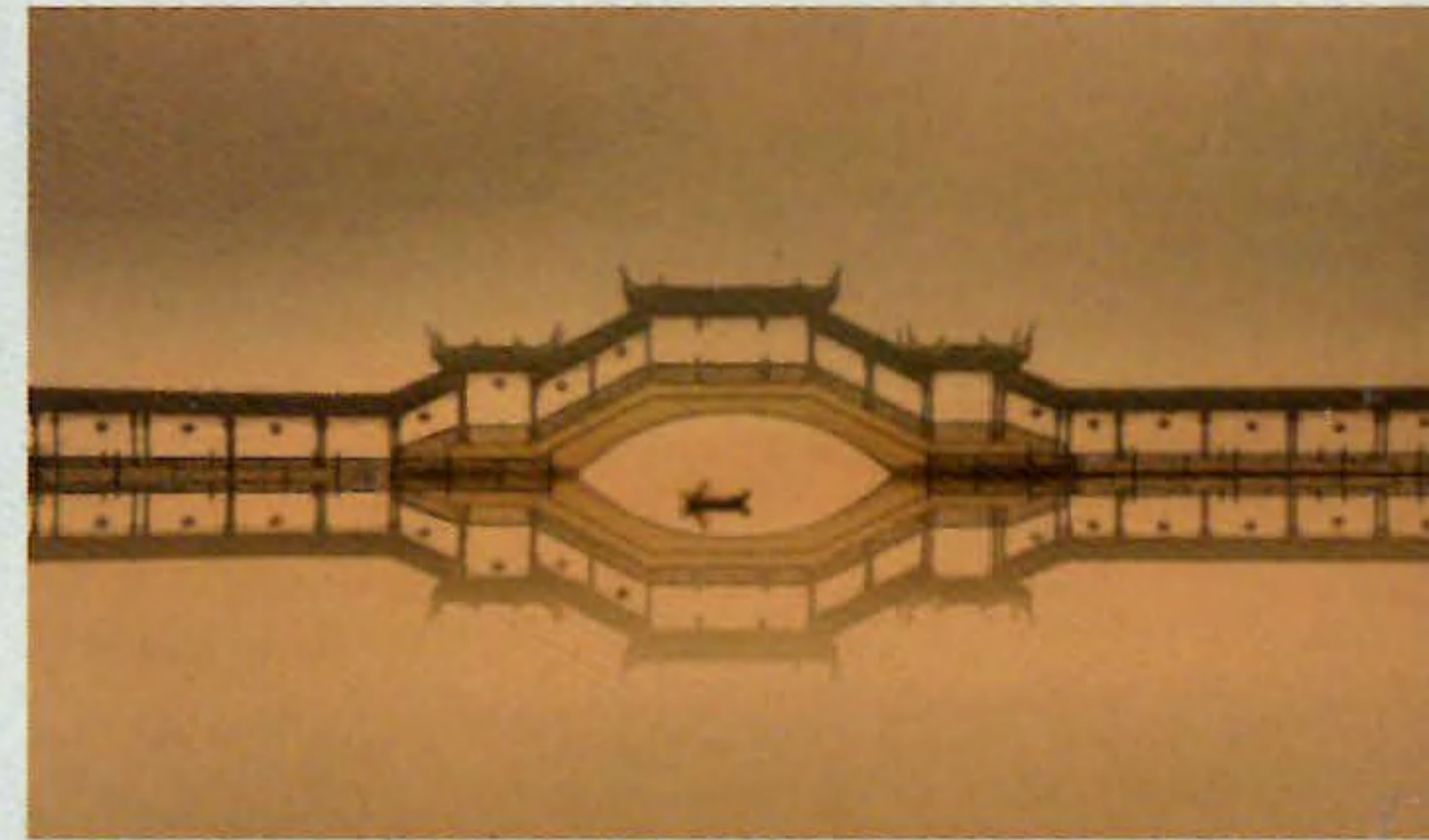
深く隠れた路地と古い街はまた水郷古鎮の特有な見所で、この一枚一枚の煉瓦に数え切れないほどの忘れられた物語が記載され、一個一個の石は数百年前の人々の真実な生活を述べている。人々は凸凹している青い石畳の道を踏んだり、舟を馬にして烏篷船に乗ったりして、忙しい時は田畑で身を屈めて耕し、暇な時は居酒屋や茶屋で足を止め、所々に見える民俗の風情も水郷人家の縮図である。居ても遊んでもいい天地の中で、水郷の古鎮は常に心とびったり合う落ち着き先を用意してもらい、旅行に恬淡な雰囲気、レジャーな境地を作り、そして一種の生活様式の復帰にもなる。



錦溪古鎮

錦のように輝く千年水郷

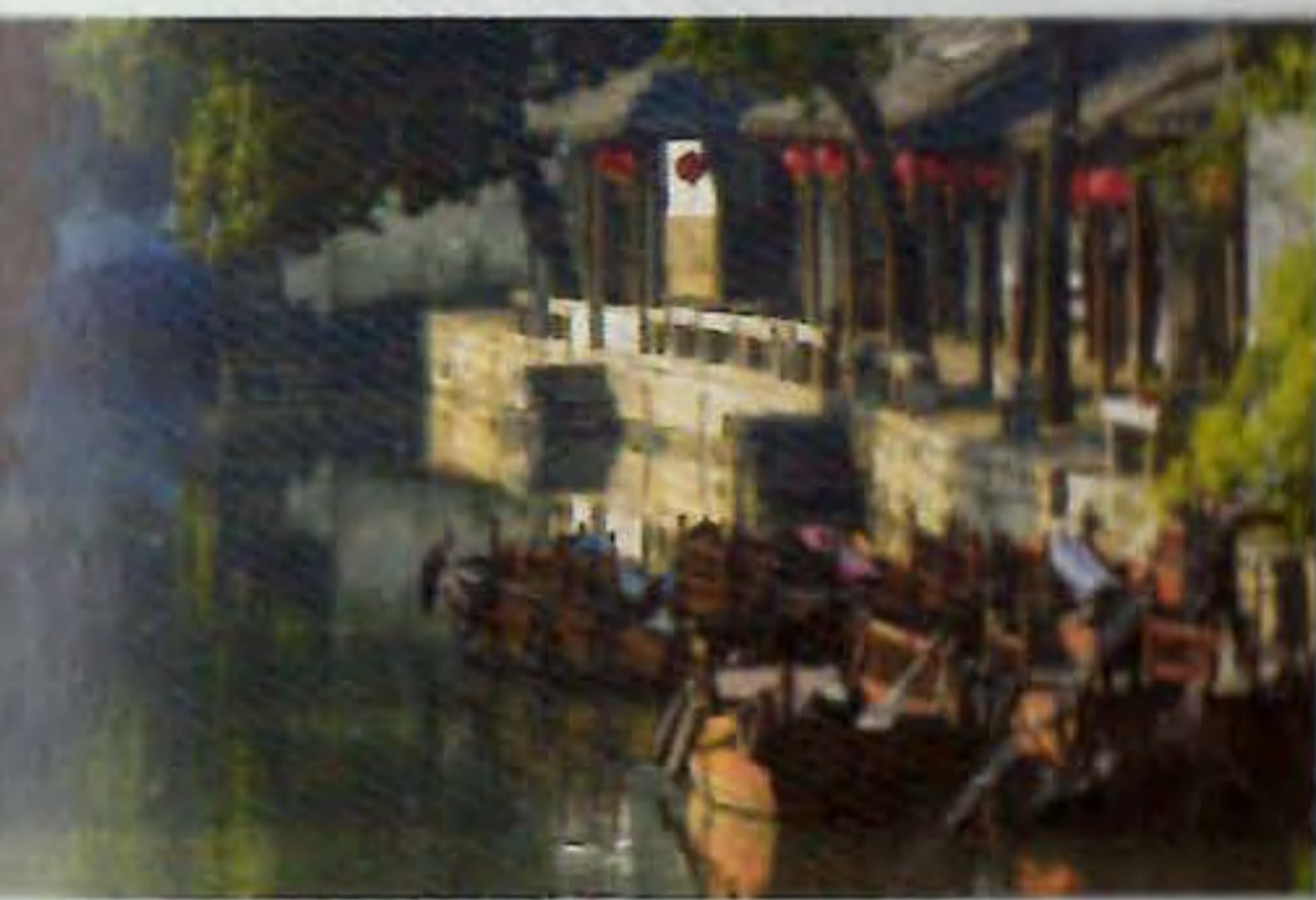
錦溪は、町の中にまるで錦のように輝く小川があることからこの名前が付けられた。多くの名所旧跡を持っている錦溪は依然として素朴な水郷のままである。耳に心地よい鈴の音のする文昌古閣、見え隠れするような陳妃水冢、蛟が川に横たわっているような十孔の長橋など、人々が水郷の高雅な趣でのんびりと歩き回りながら、幽玄な場所で昔を懐かしむことができる。



同里古鎮

碧水に囲まれる人家

長い歴史を持つ同里は美しい生活の見本で、早くも新石器時代に先人たちがここで焼き畑農業して生活し、子孫を増やしてきた。自然に恵まれたこの地は呉で最も物産の豊かな所になった。同里鎮は四面が水に囲まれ、15本の川に7つの小島に縦横に分割され、49本橋で繋がっている。「一園二堂三橋」は同里の最も特色のある景観である。



地元体験： 三橋を歩く

同里は水が多く、水がある所に橋があるもの。ここで一番有名なのは太平橋、吉利橋、長慶橋という三本の古い石橋である。この三橋は地元の人々の心の中では縁起のいいものであり、昔は鎮の住民が結婚、老人の誕生日、赤ん坊が生後1か月のお祝いをする際に必ず太鼓の音の中でこの三橋を通る。今の観光客はここに来たら、いつも三橋の上で歩いたりして、この千年以上も伝わった儀式を体験する。



地元体験： 錦溪八景を眺める

優れた自然環境と独特な人文景観により、錦溪は昔から八景を形成した——錦溪漁唱、陳妃冢、蓮池結社、通神御院、樵樓鼓音、古井風亭、福壽殘碑、石音客帆。錦溪は、生活リズムがゆったりして心地良く、煙雨の煙る中、西風と斜陽の下で、水郷の櫓のメロディーに耳を傾けて、古鎮を静かに眺めるのんびりとした静謐な美を楽しむ。



甬直古鎮

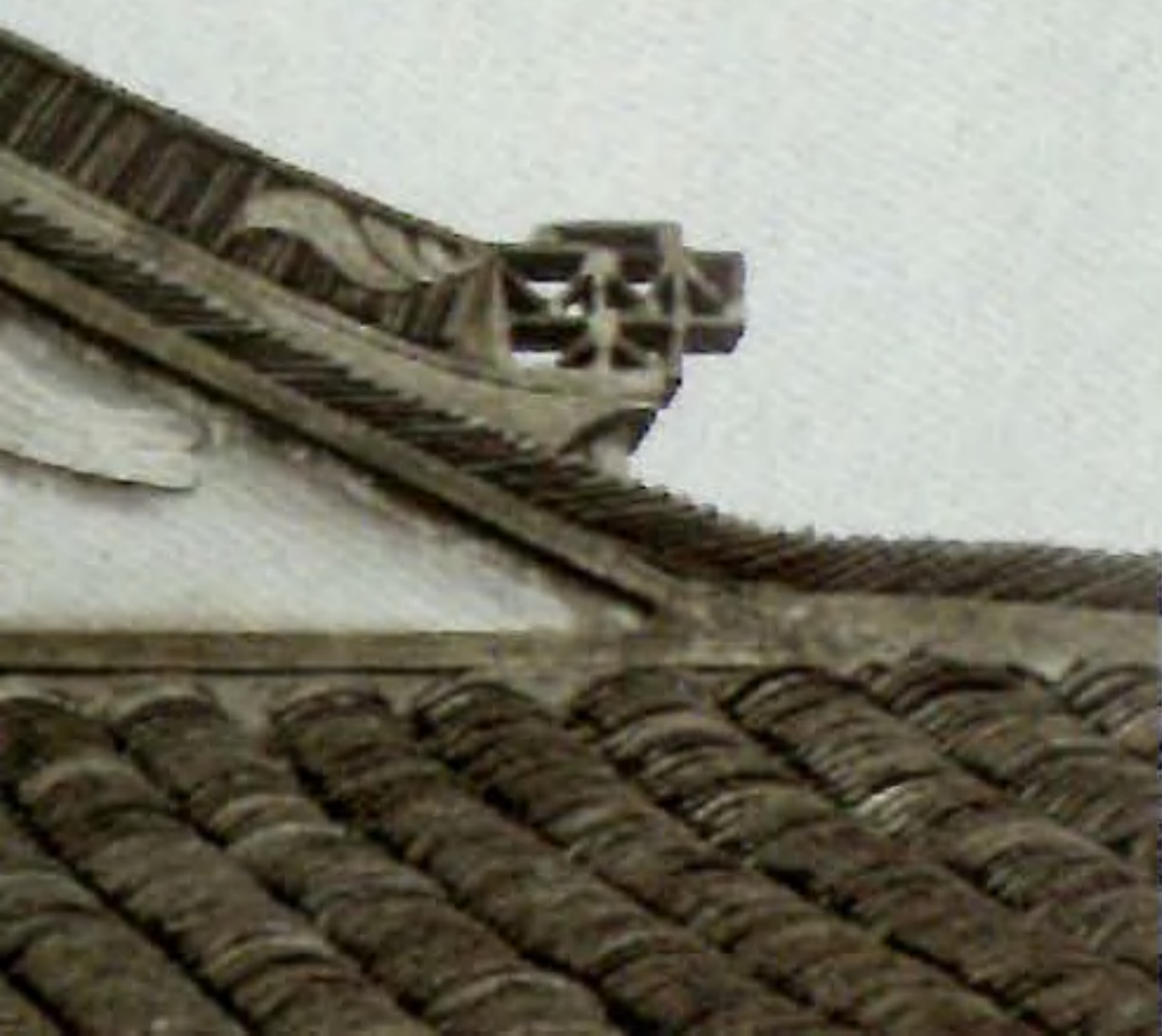
素朴で古風な美的空間

甬直は中国伝説の神獣「甬端」の故に名付けられ、蘇州の他の古鎮と比べればあまり目立たないほうであるが、江南の水郷の趣と言えば、甬直はちっとも負けない。古い家や古い街の間で、明け方の陽の光を浴びながら縁側の庇でのんびりとお茶を飲んでいる老人、雨が止んだ後、青い石畳の街で歩いている水郷の女性、甬直の生まれながらの淡然の美が人々の日常生活のシーンに溶け合い、独特な水郷の魅力を漂わせている。



地元体験： 甬直水郷婦人服

甬直水郷婦人服はその綺麗で上品な設計で、濃厚な地方の特色で中国水郷服の見本とされている。服は季節や女性の年齢によって様々な様式がある。現在、古鎮にある甬直水郷婦人服伝習所では、現場でカスタマイズや自分の好きな様式を借りて古鎮で写真を撮ることができる。



恵山古鎮

露天歴史博物館

「露天歴史博物館」と呼ばれる恵山古鎮は恵山の麓にあり、祠堂、茶泉、泥人文化が集まり、文化の宝箱のような存在である。祠堂は恵山の最も著しい特色で、多種多様な建築には様々な牌坊と石碑が保存されており、100以上の名字の歴史と文化を伝承している。その中を歩いて、尋常な路地や横町をのんびりと回り、地元の方習と民俗を感じ取り、ここならではの生活の情緒を味わう。



地元体験： 祠堂文化を探る

祠堂は昔、有名人や先祖を祭るために建てられた建物で、中国人の骨に刻まれた恩返しと感謝の気持ちを反映している。古鎮には100以上の祠堂があり、真っ白な壁と黒い瓦、反り返った軒先と斗拱の中国式建築もあれば、はっきりとした構造の琉璃で飾り付けた西洋風建築もあり、数千年も続いた「祠堂群」景観は、無錫人の千百年以来の忘れられない共通の記憶を凝集した。





唐閘古鎮

残された工業の趣

南通にある唐閘古鎮は「中国近代工業第一鎮」と呼ばれ、唐閘古鎮でぶらぶら歩いていると、昔ながらの独特な風情のある建物がぼんやり見える。最も目を引かれる紅樓は、青い煉瓦、赤い瓦、モザイクの廊下、石の彫刻のガードレールで、ヨーロッパの風情が特に濃厚である。工業文明時代の世の中の転変を嘗め尽くした気分が褪せた後、古鎮には濃厚な現代芸術の雰囲気漂っている。



地元体験： アートクリエイティブスペース

1895文化創意園は南通の有名な実業家である張謇が創建した早期工業旧跡を主体として、歴史を保留しながら現代芸術要素を入れて、濃い工業風のついた文芸気質の小さなお店が点在してこの古いエリアを飾り付け、異なった芸術形式と現代科学技術文明のふつかりで芸術と生活の無限の可能性が引き出された。



「小橋、流れる水、人家」は江蘇水郷の最も根本的な姿と地色で、悠々自適で優雅で、万物と調和・共生している。水郷の半分は水で、半分は岸で、水から上がった石の階段は家々の前や後ろに繋いでいる。水郷の生活は水と緊密に繋がっており、橋の上り下り、船の行き来はこの古鎮の日常生活である。

周莊古鎮

世の中には周莊での生活というのがある

周莊は蘇州昆山に位置し、「中国一の水郷」と高く評価されている。百近くの古典的な邸宅、60余りの煉瓦彫りの門楼と14本のそれぞれ特色がある古い橋があり、典型的な江南水郷の様子を表しており、千年の歴史の移り変わり濃厚な呉の文化を含んでいる。



地元体験： 「阿婆茶」を食べる

「阿婆茶」は周莊の大きな特色である。面白いことにこの「お茶」は「食べる」のである。「食べる」というのは、お茶を飲む時に、いつも様々な菓子とセットにしている。例えば、ショートケーキ、青团、定勝ケーキなどである。「お茶」を食べている時、人々は世間話をして、思いを述べて、郷人との感情を深める。



溱潼古鎮

水波の演じるスローライフ

溱潼古鎮は四面を水に囲まれ、風光明媚で、2万平方メートル以上の完璧に保存されている明清古建築群がある。江蘇中部地区の古民家が最も多く、最も完全に保存されている古鎮である。古鎮では、店が林立し、庭園が深く、本の香りがまだ残っている院士旧居、路地の奥深さを恐れない古酒屋、落ち着いた雰囲気が漂っている禅寺は古鎮で点在している。歴史と生活は目の前で重なり、趣が尽きない。



地元体験： 溱潼会船

清明節の前後になると、十里溱湖で数え切れない船が先を争って速く進み、年に一度の中国姜堰溱潼会船節を迎える。この世界最大の水上祭りは「民俗文化の大観、水郷風情の博覧」と呼ばれている。溱潼会船は地方の特色を備えた民俗活動として、その内包はもう特に会船そのものを超えており、民間文化を集中的に展示する最高の場所となっている。



蕩口古鎮

霧雨の中の水墨江南

蕩口古鎮のある鵝湖鎮は、小川が多く、風景が秀麗で、昔から賑やかな江南の「水の埠頭」である。古陳の中は旧宅が川に臨み、小橋が古くて質朴で、路地が奥深い。雨の中の蕩口は特に美しく、ぼんやりしている中、はっきり見えなく、はっきり分からないが、更なる詩歌や絵画の境地に到達した。その中に入って、騒がしく物騒な音がすべて聞こえなくなり、まるで別の世界まで通り抜けたようである。





窯湾古鎮

青い煉瓦と灰色の瓦の中で醬の香りを探す

食糧輸送は中国の明清時代に最盛期に発展し、水運の優位性に依託し、江蘇北部に位置する窯湾古鎮は運河沿岸の重要な埠頭と商業都市となっている。青い煉瓦と灰色の瓦の庭園と家屋、青い石を敷いた街道、空気の中で漂っている濃厚な醬の香り、すべて古運河文化が民間で伝承している本当の様子である。



地元体験： 水上櫓漕ぎ船に乗る

過ぎた千年近くの間、瀟口古鎮は船に頼るしかない。他の古鎮に比べ、船の種類が非常に多く、航船、烏蓬船、竜船、消防・灌漑用の「洋竜船」がある。船文化博物館とも言える。ここに遊びに来た方々には、ゆっくりと櫓漕ぎ船に乗って水郷のリズムに入ってこのゆったりとした雰囲気でお薦めの時間を味わうのをお薦めする。



地元体験： 醬園で香探し

甘い油は窯湾ならではの調味料で、醤油と似ており、口に入ると少しばかりの甘さがして、ちょっと吸い込んでみると、口にいっぱい香が広がっている。極めて新鮮な調味料として、生の魚介類や野菜の和え物に使われており、非常に美味しい。窯湾古鎮の「趙信隆醬園店」で、笠を被って整然と並んでいる200本以上の大きな缸が、店の裏庭でいっぱいになり、人々は近距離で甘い油の生産過程を見学できる。





CHARM OF 水韻の古鎮 JIANGSU'S ANCIENT TOWNS

河下古鎮

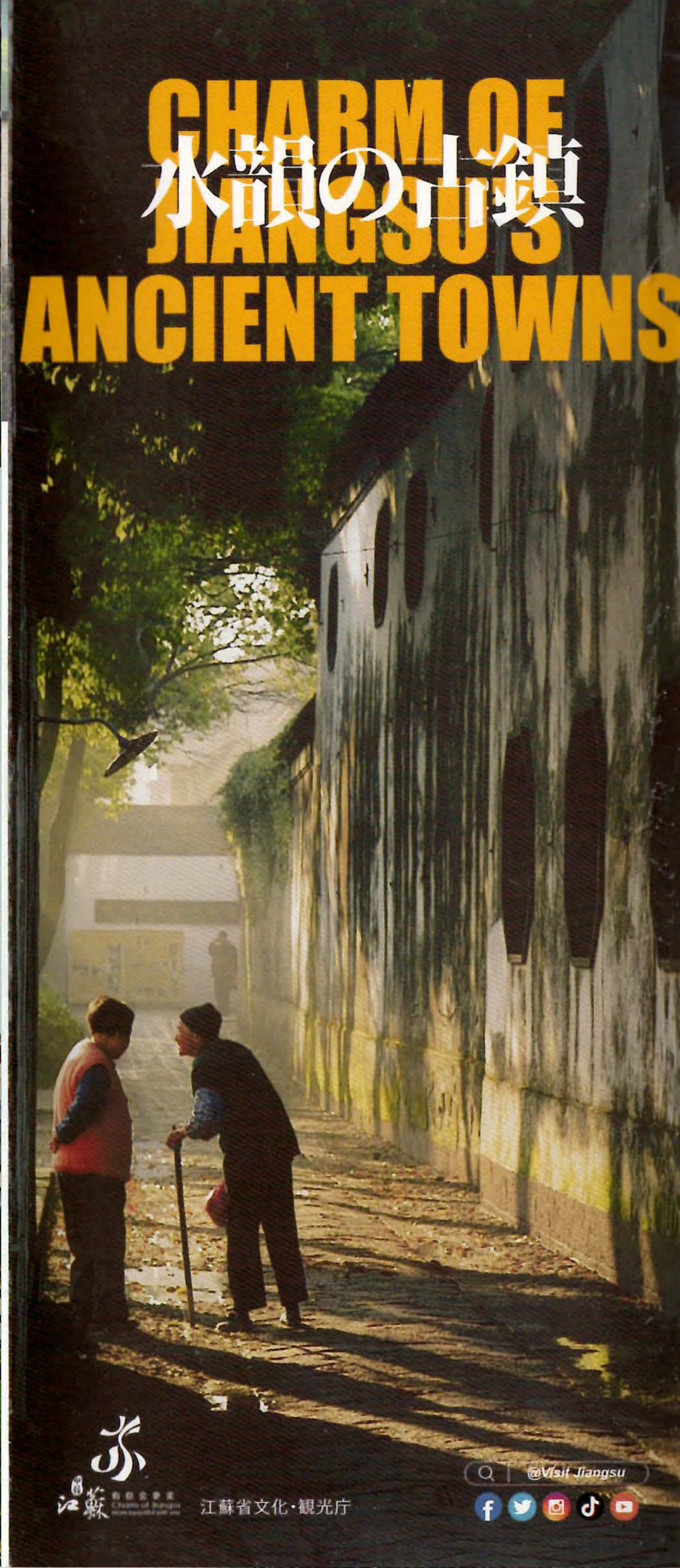
千年も流れる運河の時間

2500年前、呉王夫差は江淮を貫通した淮揚運河を掘り、淮安城の北にある河下と淮河を繋ぎ、河下古鎮が生まれた。現在は騒ぎ立てる人の流れが少なくなったが、古風で静かな雰囲気は古鎮の深い内包を覆えない。石畳の街にある車や馬の跡、斑な煉瓦の壁、全部運河時代に残した歴史の痕跡である。



地元体験： 古い街と古い味

古鎮で一番古い湖口大街は1500メートルもあり、両側の曲がりくねった路地に繋いだ。街を歩いていると、古い趣もあれば、現在生活の雰囲気もある。百年の老舗の王興ポウ(葱)醬園、岳家茶サン(徽)、文樓湯包はいずれも一番古い味で、心身ともリラックスできる平穏な生活でもある。



江蘇省文化・観光庁

Q | @Visit Jiangsu



CHARM OF JIANGSU'S CULTURE AND CIVILIZATION

水韻の文脈



水、千古不滅、万物を潤い、人類文明の暗号がその中に潜み、文化の発展を絶えず促している。水韻江蘇、中国の沿海辺り一面の魚と米の名産地を潤い、江蘇を豊かで繁栄にした。江蘇の大地を見下ろすと、水の足跡はどこにもある。広々とした長江、広大な黄海、延々と続く運河、透き通った大湖、江河湖海はここに集まり、全国特有な風景である。縦断した水系、至る所にある水網は、動脈のように、江蘇独特の地形の肌理を構成している。

水に沿って住み、水によって繁栄する。水韻江蘇、万物が涼しい気候で思う存分自由に生きている。人と自然は、この土地で調和して共存し、清らかで秀麗な水の風景や変化に富んだ人文の絵巻を演出している。広々として溢れ出す長江は、乱れた荒波で壮大な史詩を描いている。碧波がどこまでも続く湖は、湖岸線をうねらせて帆の影や漁歌を歌っている。水草の茂った湿地と干潟は、ひらひらと舞い踊る鷺の鳥が自然の楽しげな歌を踊っている。縦横に交錯する川の小道では、櫂の音や灯の影が風雅な思いを揺れている……水は異なった姿、異なった気質で、江蘇の壮観をきわめる気象を作り上げた。

紆余曲折、極めて柔らかく、極めて力強く、異なった水の気質が江蘇文化の多様性を育てている。水はまた江蘇人の血筋を流れ、江蘇人に優しく温厚で、開放的で包容力があり、勇敢に先を争う品質を与えた。水は万象を融合し、江蘇の江河湖海の独特な気概を感じ、水韻の秘境を探り、「上善は水の如し」の意味を悟り、水辺に立ち込むと、趣と哲学的な思想が自然と思い浮かべてくる。



THE YANGTZE RIVER

広々とした長江が江蘇省の境を流れ、東西433キロを横切っている。緑の帯のように江蘇省沿線8都市を繋いでいる。とめどなく溢れ出す長い川が古今を結び付け、秀麗な江水が豪壮な気概を表し、長江はくねくねと続いて雄大な景色をもたらし、長い歴史を持つ江蘇の「黄金水路」になり、輝かしい揚子江文明を描いている。



長江大橋

歴史の思いの印。

まるで水中に泳いでいる蛟のように、大江の南北に横たわり、天険が道に変わり、南京長江大橋は初めての中国独自で設計して建てた長江にかかった二段式の鉄道と道路の両用橋で、1968年に開通してから、その伝奇を描いている。大橋は新中国の技術成果と近代化の象徴で、中国の実力の飛躍を証明する精神の橋で、江蘇の文化記号である。



長江大橋は中国の数世代の人々の特別な感情と記憶を寄せており、情熱的な時代の縮図であり、独立自主、自力更生の理想の表れであり、中国人の集合的記憶を根ざしている。多くの江蘇人、中国人の家庭のアルバムの中には、自分が長江大橋の橋頭堡か、彫刻の前に立っている写真が飾られている。

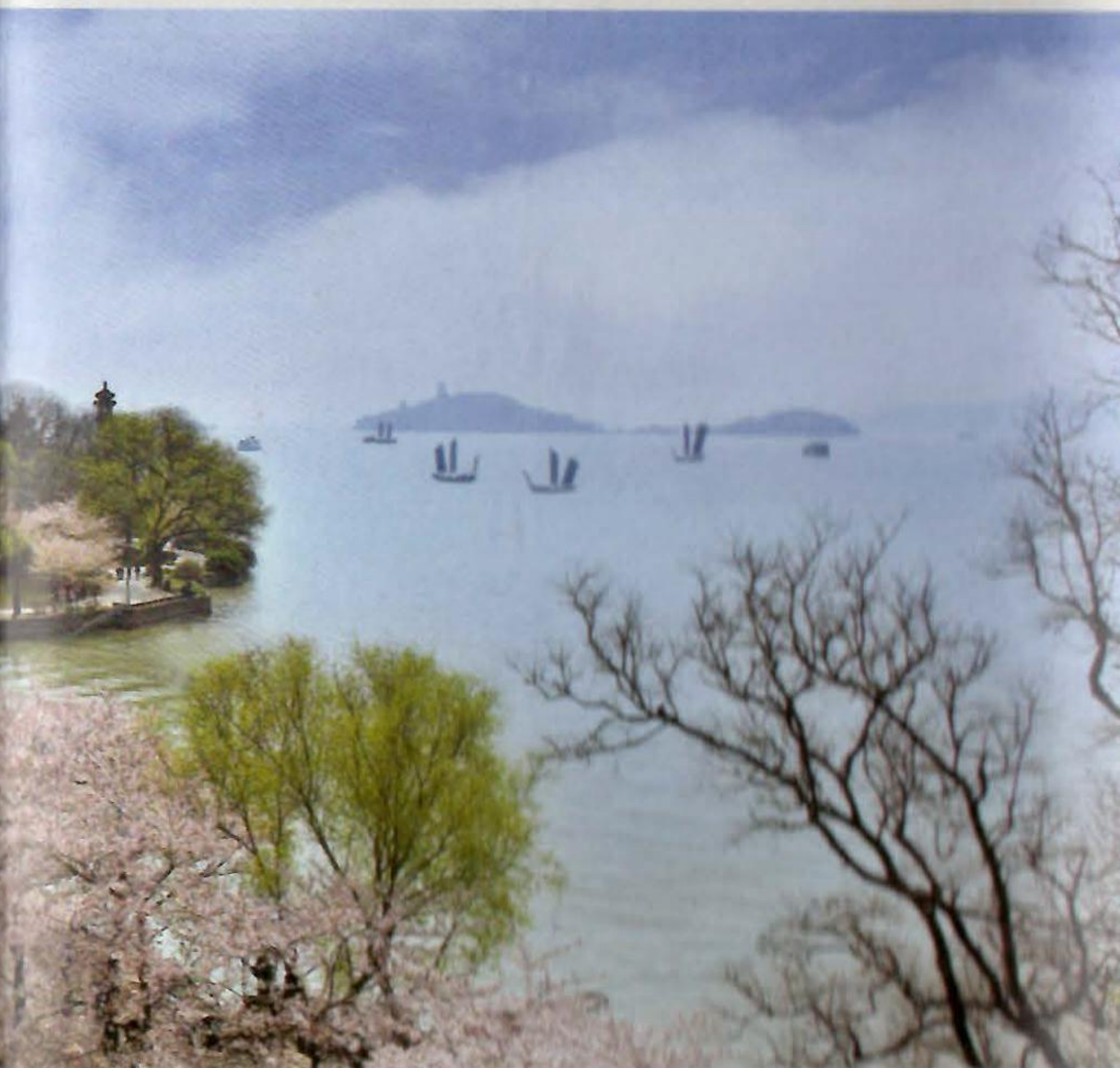
西津古渡

要害の地

西津古渡は山に依託して川に臨み、風景が美しく、「江南第一渡」と呼ばれている。船の帆は林のようで、あちこち行ったり来たりして、古来より西津渡は有名な長江の渡し場で、食糧運出の要害の地である。古渡は悠々として、李白、蘇軾など多くの文人雅士もここで船を待ったり岸に上がったりして、千古に伝えられた詩篇を残した。

1300年余りの歴史の移り変わりを経て、今の西津古渡は長江の波や帆の影の映りで依然として容姿が艶やかで、まるで千年の絵巻のようである。西津渡の古い町並みを歩いていると、唐宋時代の青石街、元明時代の石塔、晚清時代の樓閣、民国時代の西洋建築、路地や横町、歴史はここで幾重にも積み重なって、一目で千年の歴史を尽くすことができる。





L A K E S
湖

江蘇省の湖が星のように多く点在しており、まるで翡翠のように美しく輝いており、詩の趣に富んだ風景をもたらした。ここには中国五大淡水湖の一つである太湖がある。秀麗で清らかな太湖は江南のすがすがしく繊細で、詩的な文人ファッションを注ぎ込み、輝かしい呉越文化を育んだ。ここにも心を込めて作った庭園と内湖があり、自然の湖の景色を昇華し、目の前に無限の境地を作りあげた。

太湖鼋頭渚

山水の絶景

「太湖の絶景は結局鼋頭にある」、鼋頭渚は太湖の北西岸に横たわる半島で、無錫太湖十五渚の中で一番美しい水中陸地で、風景が雄大で秀麗で、自然そのままが完璧である。太湖の山水を巡ると言えば、鼋頭渚は最高な観覧スポットである。鼋頭渚鹿頂山の最高峰に登り、二つの湖が見られ、太湖の霧に霞んで果てしない水面や蠡湖のさざ波を眺めることができる。



変化に富んだ鼋頭渚、四季が絵のように美しい。春は桜を見、夏は蓮を眺め、秋は漁をし、冬は鳥を鑑賞する。いつも季節によって、驚きを与えてくれる。ここにはまた鼋渚春濤、万波卷雪、三山映碧などの人間秘境がある。雲や霧、雨に遭うと、鼋頭渚が見えつ隠れつして、いかにも素晴らしい。夕日が西に沈む時、鼋頭渚で船に乗って湖を巡り、帆の影が点々しているのを眺め、また江南の漁家の風情を味わうことができる。

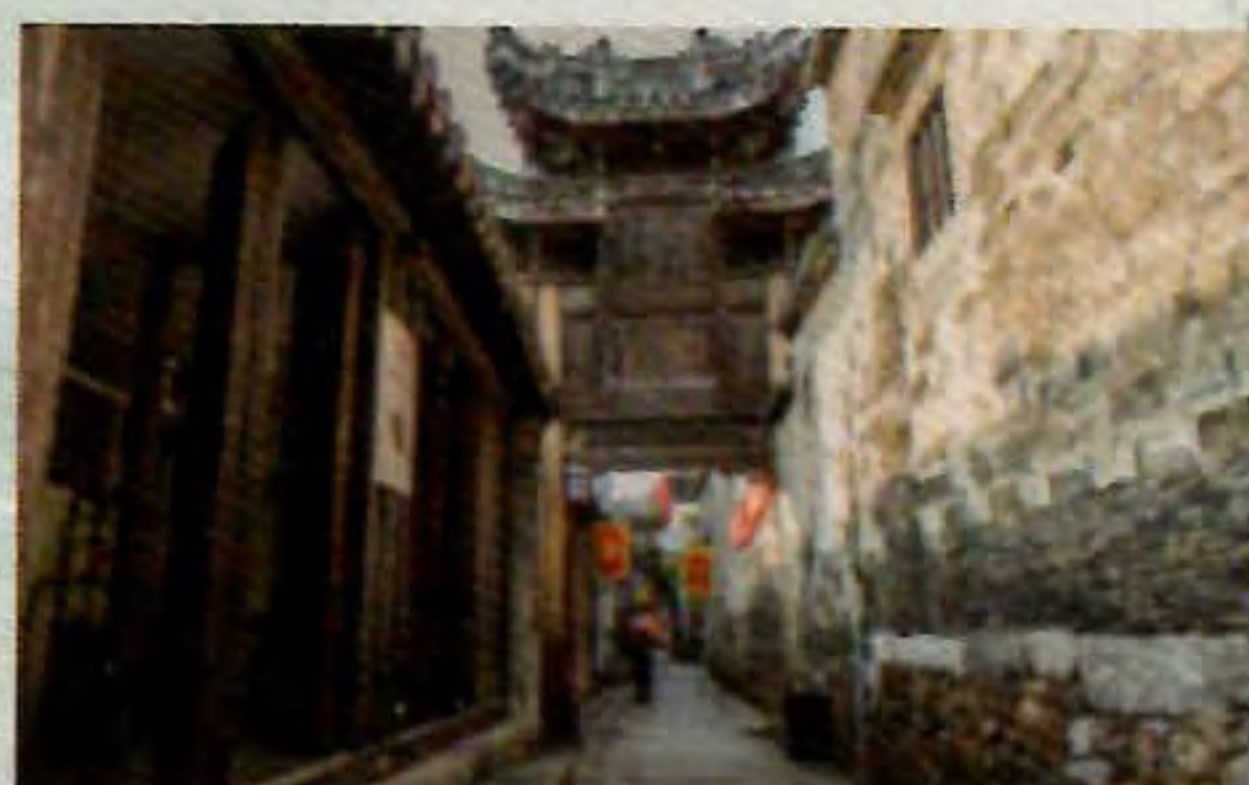




太湖東山観光スポット

湖畔に住む自由

太湖東山観光スポット、又名は洞庭東山で、太湖の急所に位置する半島で、いくつかの太湖の小島を管轄し、「太湖山水第一鎮」と称えられている。ここは三面から水に囲まれ、果てのしない湖の風景は天まで繋がり、船の帆やカモメの影は点々としていて、俗に染まらなく、俗世間を離れた自由自在な仙境である。



島の上には木々が生き茂っており、青い山が壁のようである。自然の風景が純粹で、湖の堰をめぐって自転車に乗り、思う存分深呼吸することができる。古い村や古い路地を訪ね、陸巷古村の明清建築で江南文化の精緻な雰囲気を感じていい。三山島の奇石異景を眺め、湖で舟を浮かべ、太湖の詩趣に溢れた山水の間に酔いしれ、心と体をリラックスさせる。清らかで綺麗な風物のは実に憧れる。



瘦西湖

狭い空間での無限な風景

江蘇庭園の秀麗さは瘦西湖から見える。昔、江蘇のお金持ちの塩商人は運河城のそばにこの極めて精巧な庭園を建てた。職人の智恵と技巧を尽くした瘦西湖は「庭園の美、天下一」という名誉を成し遂げた。瘦西湖は天然の湖ではないが、芸術的な手法で湖の風景と境地を余すところなく表した。



全体の庭園は「山」に依託して水に臨み、湖に面して築き上げられ、いくつかの小さな庭園があり、中の庭がお互いに繋がっており、自ら系統になっている。曲がりくねった湖の碧水に徐園、小金山、五亭橋、白塔、二十四橋、万花園、双峰雲棧などの名園や景勝を繋ぎ、造景には大きな意義を見出すことができ、境地深遠である。庭園を巡ると、まるで天然の水墨画の長い絵巻をゆっくりと開いたようである。



THE
SEA

西から海を眺めると、波濤がごうごうと相打ち、干潟が延々と続いていく。江蘇は広々とした長江や秀麗な川と湖だけではなく、広くて果てのしない海もある。中国の黄海で一番長い自然岸線は江蘇省の境内にある。幅広い東海の波の音は歌声のようで、山や海からの誘いを出している。広大な海域や湿地で、静かに文明を育み、奇妙な海岸の景勝を演出している。

蘇馬湾

波の音を聞きながら日を眺める

三面緑の山に囲まれ、ただ一角を残して緑の海を眺める蘇馬湾は、江蘇連雲港連島での俗世を離れた仙境のような存在である。山の森は青々としていて、鳥がちゅうちゅうと鳴いて、深呼吸する天然酸素バーである。林に入って名勝を探し、奇花異石を訪れ、溪谷の水がさらさらと流れる音を聞く。夜は山に依託して建てられた小さな木屋に泊まり、波が激しく相打つのを聞き、海辺で日の出を見て、この世離れの一時をゆっくりと楽しむ。



山の下は青い海が広く、潮が満ちたり引いたりして、綺麗で優美な海岸線を軽く撫でている。柔らかい砂浜を歩くと、「永遠の愛を誓う」碑石のそばに「秦晋の好」を結んだカップルがよく見つかる。長年雨や波に打たれて腐食し、ここは奇妙な形をしている海食地形を形成し、蘇馬湾の大きな海食崖は常に人の好奇心を唆している。



小洋口

海上ディスコ

長江の河口の北では、潮汐がここで美しい自然な模様を描き、数万匹の珍しい鳥類はここで休憩し、広々とした黄海観光景勝地はここで蔓延して成長している。ここは小洋口であり、理想的な海辺のリゾートである。

188メートルの海上九曲橋に沿って、日の出を見たり、海風に吹かれたり、潮を眺めたりして、南黄海の港の海の風情を存分に味わうことができる。潮が引いたら、干潟でハマグリを踏むのは特に面白い体験になる。どこまでも続く干潟で、両足を広げ、腰をくねらせ、音楽のリズムに合わせて腕を振り、つるつるしたハマグリを踏む。海風は簫の音、波は鼓の音、カモメは喜んで鳴いていて、まるで盛大な「海上ディスコ」で踊っているみたいである！





川の水路が縦横に走り、水網が密集しており、江蘇省内では数千本の川がある。古くて有名な京杭大運河、長い歴史を持つ淮河、そして数多くの分枝がある。生き生きとした川の水は豊かな物産を運んできており、人々は水に依託して暮らし、川に沿って住んでおり、延々と続く運河文化を生み出し、文化古城の歌を成就し、長い江南の水路地をうねらせた。

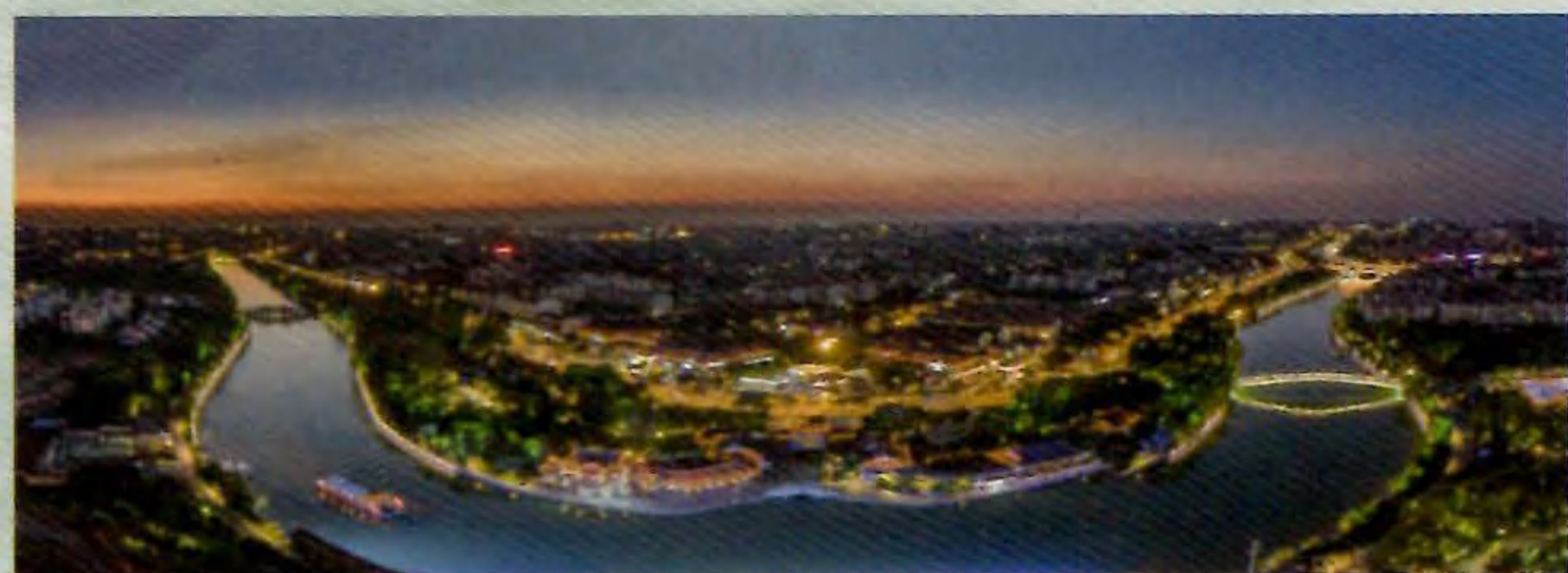


京杭大運河

流れる「史詩」

世界で一番長く、一番古い人工水道として、京杭大運河は中国文明の記録であり、世界独特の活態文化遺産でもある。大運河江蘇段は全長690キロメートルで、中国大運河で川筋が最も長く、文化的な遺留が最も多く、保存状況が最も良く、利用率が最も高い省である。現在に至るまで、大運河江蘇段は依然として黄金の水道である。

悠々たる運河が千年も流れ、江蘇省にある数多くのきらきらと輝く真珠のような名城古鎮を育んできた。運河都市に入り、大運河のテーマ博物館を訪れるのは、まるで華やかで美しい運河の詩篇を開いたようである。



揚州運河三湾観光スポット

揚州の運河三湾は明の時代に建てられ、「三湾は一つのダムに相当する」。三湾は中国の水利工事歴史上の伝奇を成し遂げただけでなく、古い運河の最も華やかで美しい一章にもなった。今、古い運河の三湾は新しく生まれ変わり、青空や碧水は絵のように美しく、レジャーや水を楽しむエコロジックで理想的な観光地になった。観光スポット内には新たに中国大運河博物館が建てられ、外見は帆を上げて出航する船舶のようで、輝かしい運河の過去と現在を記録している。



十里秦淮

夢の中に響いている棹の音

十里の秦淮河霧に霞んだ水路、古今を輝かせている。秦淮河は金陵文化を育み、南京の母なる川であり、「中国一の歴史文化名河」とも言われている。ここは古くから名望のある家柄が集まって住んでいる所で、商売人がここに集い、文人がここで一堂に会し、儒学が盛んで、「六朝金粉」という名誉がある。「華やかな遊覧船と楽器の音は、昼も夜も絶えない」。昔、ここは文学的な雰囲気が濃厚な繁華街であった。



今の秦淮河の観光エリアは、夫子廟を中心に、瞻園、白鷺洲、中華門、桃葉渡、江南貢院などの名勝と美景を繋ぎ、国内外の観光客を魅了している。夜は船で秦淮河を巡るのは、絶好な体験になり、遊覧船に乗って水路に沿って秦淮の楽器の音を聞き、酒屋、茶屋、軽食の賑やかさを体験し、まるで夢でも見ている昔の繁華街に帰ったような感じである。毎年、秦淮提灯祭りも古風で素朴でとてもにぎやかである。



水韻の文脈

CHARM OF JIANGSU'S CULTURE AND CIVILIZATION

濠河の風情

昔の光と影を映す波

史書には「城が落成した際に川がある」と記載されている。濠河は江蘇省の古い堀として静かに南通を千年以上も見守っており、南通の発展と変遷の証であり、きらきらと波に優しく映された都市の風景も繋いだ。

澄んだ濠河は静かに流れ、亭、台、楼、閣、塔、高殿、坊などと互いに照り映え、素朴で重厚な文化的伝統を積み重ねてきた。夜の濠河は特に風情がある。光孝塔、天寧寺などの周りの古い建物が明るく照らされており、ぼんやりと輝いている。遊覧船に乗って広々とした濠河を巡り、この上なくのんびりとリラックスする。



江蘇省文化・観光庁

Q @Visit Jiangsu



